

官民連携による狛江駅周辺  
歩行者空間活用可能性調査

報 告 書

令和5年3月

狛江市

(株)都市環境計画研究所



## 目次

1. 本調査の概要	5
1-1 調査の目的	5
1-2 自治体の概要	6
1-3 事業発案に至った経緯・課題	8
(1) 地区が抱えている課題	8
(2) 上位関連計画との関連性	10
(3) 上記課題への対策としてこれまで実施している施策や調査等	12
(4) 当該事業の発案経緯	13
(5) 当該事業の必要性	14
1-4 検討体制の整備	15
(1) 庁内の検討体制	15
(2) 官公庁の関係機関との協力体制	15
(3) 民間の関係者との協力体制	15
2. 本調査の内容	16
2-1 調査実施概要	16
(1) 調査概要	16
(2) 調査・事業スケジュール	16
2-2 調査の流れ	17
3. 事前調査	18
3-1 対象エリアの基礎的条件の整理	18
(1) 現状の交通環境	18
(2) 歩道空間の現況	20
3-2 事業者・出店者ニーズの把握	21
(1) 調査方法	21
(2) 調査結果	21
3-3 対象エリアの課題整理	23
4. 対象エリアにおける歩行者空間活用の方向性の検討	24
4-1 歩行者空間活用の基本的方向性	24
4-2 歩行者空間の活用事例調査	25
5. 社会実験の計画・実施	29
5-1 対象エリアにおける社会実験計画の作成	29
(1) 社会実験の主旨	29
(2) 対象エリアにおける社会実験実施個所の検討	29
(3) 社会実験計画	30
(4) 社会実験の実施手法および体制	36

5-2 社会実験の実施・運営 .....	37
(1) 社会実験期間の状況 .....	37
(2) 社会実験参加団体の管理運営 .....	38
(3) 広報等 .....	40
(4) 社会実験現地調査 .....	42
(5) メディアによる紹介 .....	45
6. 結果分析 .....	47
6-1 社会実験の効果検証 .....	47
(1) 来場者アンケート .....	47
(2) 参加団体アンケート .....	51
(3) 歩行者交通量調査 .....	58
(4) 南北通路飛出し実態調査 .....	60
(5) 押し歩き自転車実態調査 .....	61
(6) 考察 .....	63
7. 事業手法・スキームの整理・検討 .....	65
7-1 事業手法、運用体制 .....	65
8. 狛江駅周辺エリア道路利活用方針（案）のとりまとめ .....	66
8-1 策定の経緯 .....	66
8-2 狛江駅周辺エリア道路利活用方針（案） .....	67
9. 狛江駅周辺の快適な歩行者空間の創出に向けた官民連携協議会の運営支援	74
10. 今後の進め方 .....	75
10-1 ロードマップ .....	75
10-2 今後の検討課題 .....	75

## 1. 本調査の概要

### 1-1 調査の目的

本調査は、狛江駅周辺エリア（高架下商業施設・改札周辺・駅前オープンスペース・周辺道路）において、歩行者利便増進道路（ほこみち）制度の導入に向けた、道路利用のニーズ把握や課題整理、歩行者の快適性や安全性の検証、滞留状況の把握のほか、周辺の公共空間の管理・活用を行うための組織体制、官民連携スキーム等を整理することを目的とする。

本調査の検討対象範囲は、以下のとおりである。

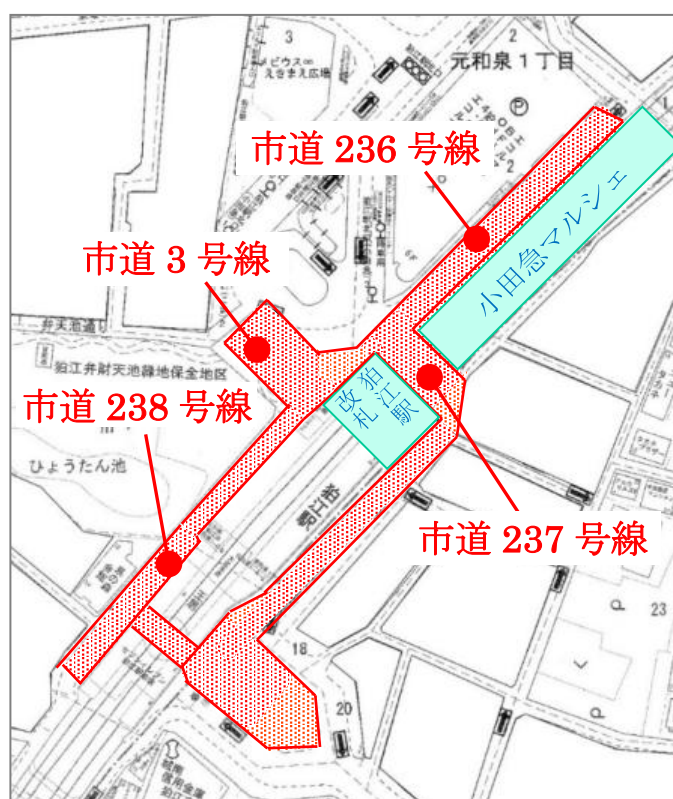


図 1-1 本調査の対象地区

### 社会実験の実施

本調査において計画した社会実験計画に基づき、以下の内容で社会実験を実施した。

- ・社会実験の期間：令和4年10月22日（土）～30日（日）
- ・実施場所は、図1-1の対象地区の範囲とし、社会実験を行った。

## 1-2 自治体の概要

狛江市は東京都の中央南に位置し、多摩川を挟んで神奈川県と隣接している。市域の面積は 6.39 平方キロメートルであり、都内の市では最も小さく、全国でも 2 番目に小さい市域となっている。市の玄関口である狛江駅は、新宿駅から電車で 20 分ほどの位置にある。



図 1-2 狛江市の位置

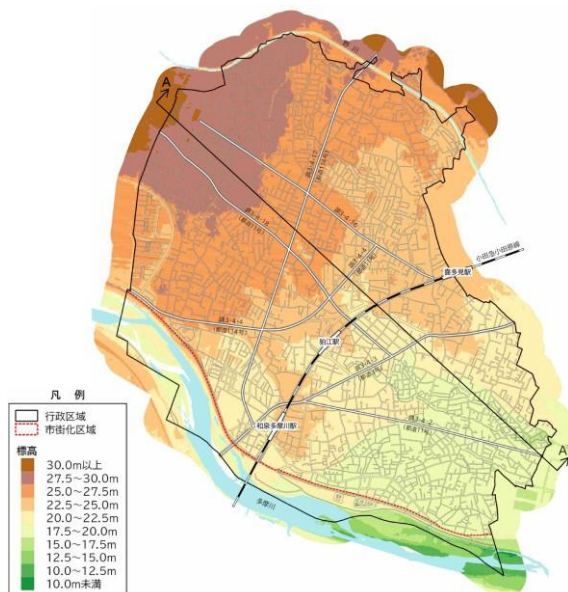


図 1-3 狛江市の地形

明治 22 年（1889）の町村制の施行により 6 つの村が合併し、今の狛江市の原型となる狛江村となり、その後、狛江町、狛江市になり現在に至っている。

市内は、多摩川の左岸にあたり、武蔵野台地の南の縁に位置している。標高は市北西部の東京慈恵会医科大学附属第三病院付近が約 30m で最も高く、南東側につれて低くなり、水道道路の世田谷区境付近で約 16m と最も低くなっている。

明治時代以降も狛江は畑地の多い農村であり、米や麦の他に果樹、野菜の栽培、養蚕、また多摩川での漁業が主な産業であった。

人口推移を見ると、昭和 2 年（1927）に小田急線が開通したものの、大きな人口増加は戦後の高度成長期までは起こらず、緩やかな人口増となり、郊外住宅都市としての発展はまだ見られなかった。狛江市が住宅都市へと変化していくのは、戦後の高度経済成長期になる。

高度経済成長期以降に人口増加が進み、現在狛江市の人口・世帯数（住民基本台帳人口：令和 5 年 1 月 1 日現在）は、総人口 82,749 人、世帯数 43,227 世帯である。

国勢調査では平成 27 年まで一貫して人口増となるものの、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の将来推計によると、令和 12 年をピークに緩やかに減少し、令和

22年（2040年）には、80,985人となることが予測されている。

平成28年に策定した「狛江市人口ビジョン」では、将来的な人口減少に対し少子化対策などにより出生率の向上を図り、自然増減のマイナスを改善し長期的には横ばいに持っていき、2060年においては66,000人程度の人口規模となることを目指している。

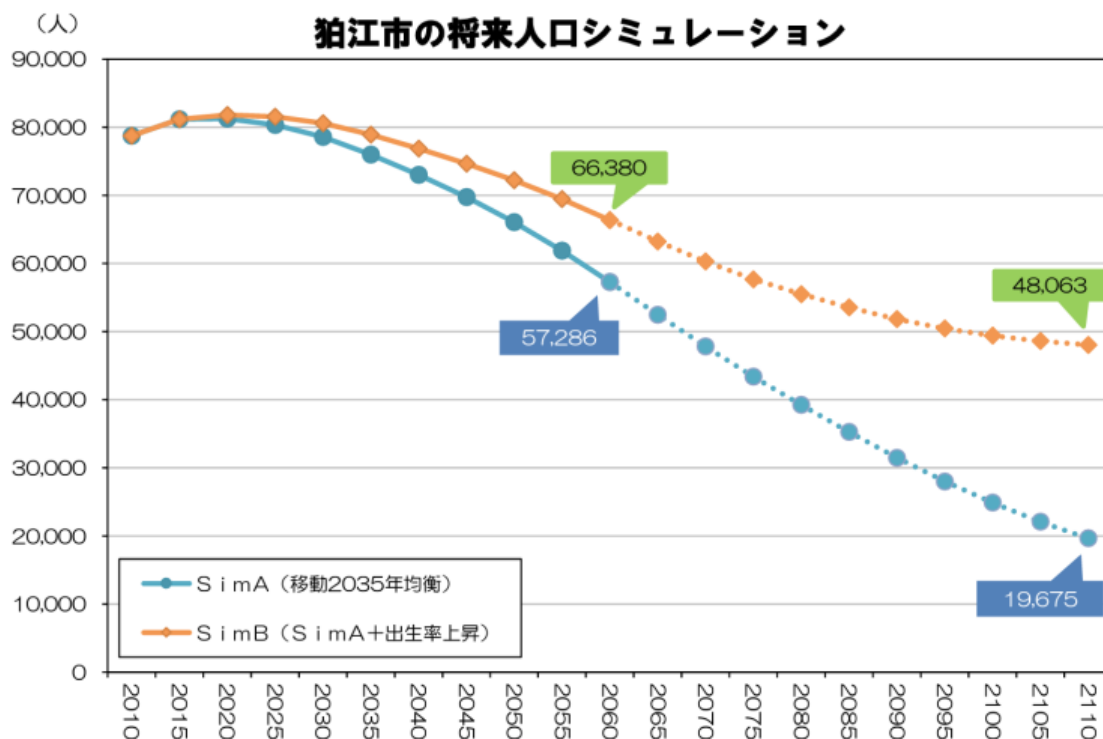


図 1-4 狛江市の将来人口推計

出典：狛江市 「狛江市人口ビジョン」（平成28年2月）

狛江駅の乗降客数をみると、新型コロナウイルス感染症の流行の前までは増加傾向にあった乗降客数が令和2年に大きく減少している。その後、令和3年には増加に転じ14,180千人と市内の駅で最も多くの人を利用する駅となっている。

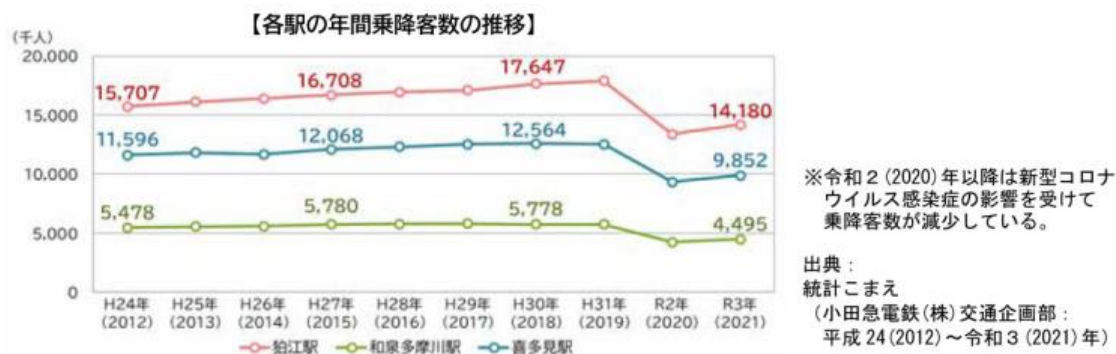


図 1-5 市内の各駅の年間乗降客数の推移

## 1-3 事業発案に至った経緯・課題

### (1) 地区が抱えている課題

#### 1) 中心拠点としての交通利便性の向上

令和4年に策定された狛江市都市計画マスタープラン・立地適正化計画（以下、「都市計画マスタープラン」という。）では、狛江駅周辺が抱える課題を以下のとおり整理している。

〈本市の中心市街地として、都市機能の集積と交通結節点が形成〉

- ・本地域は、1日の乗降客数が3.8万人を超える狛江駅を中心とした市街地であり、市役所をはじめとした各種の都市機能が集積しています。
- ・駅北口では第一種市街地再開発事業が施行され、第1地区が平成7(1995)年、第2地区が平成10(1998)年に完成し、商業施設、市民ホール等の駅前の核となる複合的施設が立地しています。
- ・駅南口においては、小・中規模の商業施設が多く立地していますが、高度利用や南口通りの沿道利用等、利便性を更に高められるまちづくりの可能性を有しており、地権者や事業者等との協働のもと、将来的な土地活用を検討することが求められます。
- ・鉄道に沿った側道により、隣接する駅との連続性が確保されています。
- ・改札口前に駅北口と南口をつなぐ通路がありますが、南口ロータリーから遠い位置にあるため、その機能の連続性に課題があります。
- ・駅前には北口、南口ともにロータリーが整備されており、特に北口においては、多くの路線バス、こまバスが乗り入れ、広域性を有した交通結節点として機能していますが、空港連絡バスの発着等の更なる利便性の向上に向けた検討が求められます。
- ・駅南口の都市計画道路は、世田谷通りに直線的につながっていますが、周辺の住宅地内の生活道路は、建築基準法第42条2項の道路や建築基準法外の道路が多く存在するため、建て替えができない等の課題があります。また、交差点に隅切りがない箇所も多いため、緊急車両の円滑な通行や歩車分離の妨げとなっており、防災面・安全面に課題があります。
- ・狛江駅周辺は、主に多摩川の洪水浸水想定区域に含まれる中、特に駅南口は低層住宅地が広がっていることより、多くの建物において垂直避難が困難と想定され、周辺の避難所についても洪水浸水想定区域に立地している等、防災上の課題があります。

（「狛江市都市計画マスタープラン・立地適正化計画」（令和4年）より）



駅北口は駅前ロータリーの整備とともに再開発事業により複合施設が整備され、交通結節点としての機能や市役所をはじめとする都市機能が集積している。一方、駅南口は駅改札口から南口ロータリーまでは遠い位置にあることや、狭隘道路が多数存在することなど、交通面での問題を抱えている。

これらの課題に対し、施設の利便性や施設機能の向上につながるよう、施設間をつなぐ整備や道路の拡幅など、ハード面での整備を行っていくことが求められる。

## 2) 自然環境と調和した憩いの場の創出

また、都市計画マスタープランでは、駅前の歩行者空間を含む駅前空間の課題を以下のとおり整理している。

〈都市と自然やオープンスペースが調和する特徴的な景観〉

- ・駅北口から泉龍寺に向かう道に沿って狛江弁財天池特別緑地保全地区があり、中心市街地でありながら、目の前に豊富な緑や池が広がる特徴的な景観を有しています。
- ・今後も中心市街地として土地利用を検討していく中で、それら自然環境を保全し、調和することにより、豊富な水と緑が一体となった狛江駅らしい景観形成を図ることが求められます。
- ・駅北口には、貴重なオープンスペースである「えきまえ広場」や交通島があり、イベントやイルミネーション等の市民の憩いの場所として活用し、にぎわいの創出を図っています。
- ・イベントのスペース等にも利用されている駅南口の交通島は、道路を横断し交通島へ向かう歩行者の安全確保が求められています。また、駅南口周辺では、公園緑地等の公共空間の不足が課題となっています。

(「狛江市都市計画マスタープラン・立地適正化計画」(令和4年)より)

駅北口にある狛江弁財天池特別緑地保全地区の自然や駅前広場にあるステージ空間などを活かし、駅前のにぎわいの創出と市民が緑地を眺めながら過ごすなどの憩いの空間としての活用を図っていくことが求められる。

## (2) 上位関連計画との関連性

### 1) 狛江市都市計画マスタープラン・立地適正化計画（令和4年12月）

- ・市の玄関口として、中心市街地の役割を担い、快適な歩行空間の中で活動や交流が行われる拠点。
- ・多様な都市機能を誘導し、交通結節点機能が充実した拠点
- ・狛江弁財天池特別緑地保全地区の自然や歴史を生かした魅力的なまち

狛江駅周辺エリアは、都市計画マスタープランに位置付けられた中心拠点である。都市計画マスタープランの重点地域別構想の中心拠点としてのまちづくり方針によれば、「交通結節点機能の向上（バス交通の利便性向上）」「周辺環境をいかした歩行者・自転車が利用しやすい道路づくりとにぎわいの創出」「狛江弁財天池特別緑地保全地区等における自然景観の形成・歴史資源の活用」「北口と南口の機能の連続性の確保」などを方針として掲げている。

また、道路交通の方針では「居心地が良く歩きたくなる空間の形成」として、歩行空間を活用したまちの回遊性の創出等を目指し、社会実験による検証などを踏まえて進めていくこととしている。

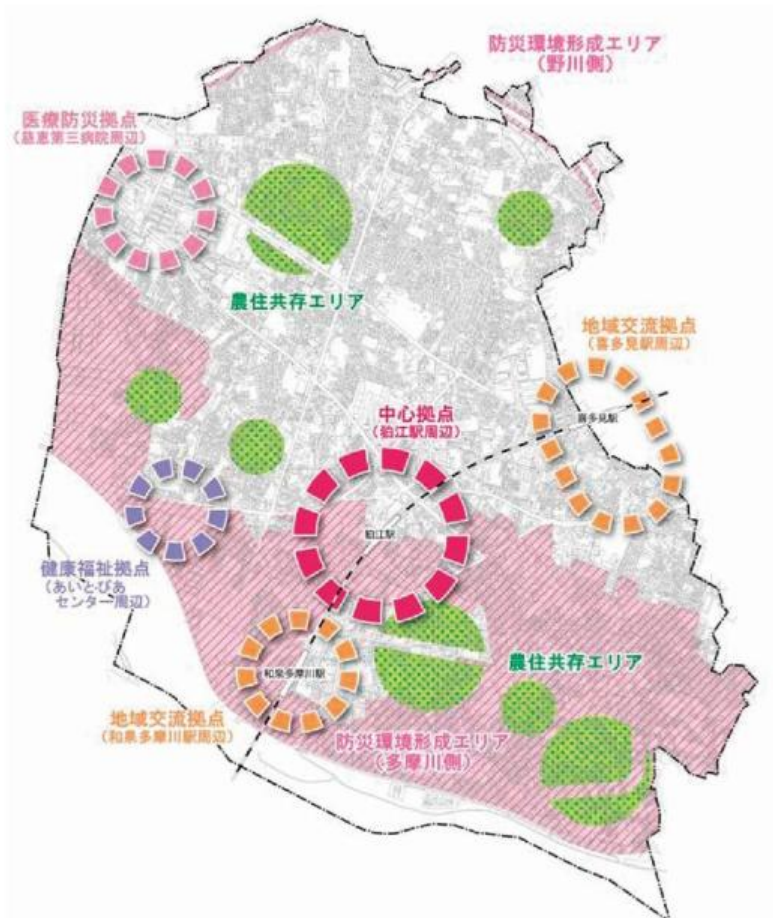


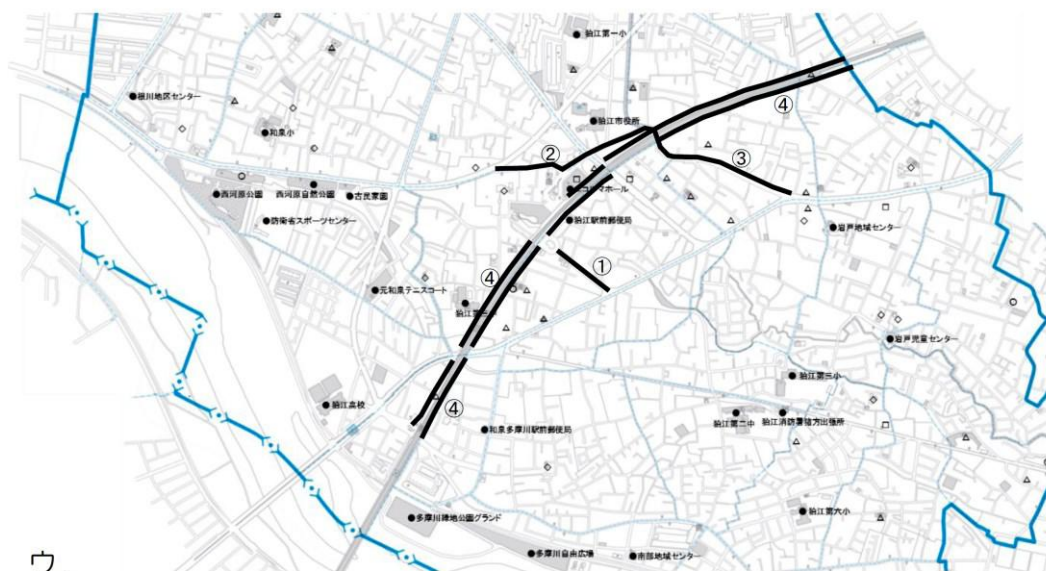
図 1-6 重点地域別構想の対象(狛江市都市計画マスタープラン・立地適正化計画)

## 2) 狛江市自転車ネットワーク計画（平成30年8月）

- ・ 駅周辺は自転車利用が集中する路線
- ・ 鉄道高架の側道は整備により自転車移動の向上を図る。

本計画の方針においては、自転車と歩行者の安全に共存できることや、駅などの公共施設に日常的に容易に自転車に乗っていただけることを掲げている。

また、本計画の「(1) 自転車ネットワーク計画路線の選定要素」において、狛江駅周辺は、駅へ向かう自転車利用者の導線として利用が集中する路線として位置付けている。さらに隣接する駅間の鉄道高架の側道は、安全対策も含め一体的に整備することで、自転車の移動が向上でき、整備効果も高くなるとしている。



ウ.

路線名	通称名	路線名	通称名
① 市道1号線	南口通り	④ 市道858、859、860、861、862、641、631、236、237、238、240、241、242、519、531号線	ふれあい側道
② 市道3号線の一部	六郷さくら通り		
③ 市道29号線	いちよう通り		

図 1-7 自転車ネットワーク計画路線（狛江市自転車ネットワーク計画）

### (3) 上記課題への対策としてこれまで実施している施策や調査等

これまでのまちづくりの取組み等は以下に示すとおりとなる。



図 1-8 これまでのまちづくりの取組み

#### (4) 当該事業の発案経緯

当該事業を行う狛江駅周辺エリアは、市の玄関口であり、1日約3万8千人の利用があるものの、駅周辺の歩行空間は常に自転車と歩行者が行き交い、また滞留できる空間も無いため快適な環境とはいえない。しかしながら、令和5年度に駅高架下商業施設（小田急マルシェ）と改札周辺の改修が予定されており、これを契機に、これらの民地と隣接する周辺市道が一体となった空間で歩行者の賑わいと滞留を創出することを目的に、周辺市道へのほこみち制度の導入を計画している。

当該事業では、鉄道や地域の事業者等の民間活力による駅周辺の賑わいと滞留空間の整備、継続的な運用を図る手法として、ほこみち制度の活用可能性を調査する。

##### 【本調査の目的】

- ・ 狛江駅周辺市道へのほこみち制度の導入に向けた、道路等の公共空間の利用ニーズの把握や課題整理、歩行者の安全性の検証、周辺エリアの管理・活用を行うための組織体制、官民連携スキーム等の整理を目的とする。

##### 【当該エリアにおけるこれまでの取り組み、経緯】

R2. 10～11月 /R4. 11月	地域の事業者が道路占用に関するコロナ特例によるテラス営業を実施 (泉の森テラス)
R4. 3月/9月	地域団体コマエノミライがマルシェを開催 (狛江 Market)
R4. 6月	小田急マルシェのリニューアルに合わせた周辺市道の整備と整備後の利活用に関する覚書を狛江市⇄小田急で締結

## (5) 当該事業の必要性

当該事業の必要性や意義は下記のとおりとなる。

### ● 狛江駅周辺の市道や民地を活用した社会実験を実施し、歩行空間整備後の道路利用のニーズ把握、課題整理

駅北口の狛江弁財天池特別緑地保全地区に面した側道は十分な滞留空間が確保されず、また、北口駅前広場のステージはイベント時以外には特に使われないなど、貴重な自然を目の前にしながらもその自然を活かしきれていない状況となっている。

今回の事業を行うにあたっては、これらの空間を利用する人が居心地よく滞留できるようにすることが必要である。

### ● 歩行空間整備後を想定した歩行者の快適性や安全性の検証、滞留状況の把握

狛江駅周辺エリアは、北口及び南口ともに駅前ロータリーが整備され、また、鉄道高架に沿って側道が整備されているが、歩行者と自転車が混在し危険な状況となっている。今回の整備を機に、歩行者と自転車が安全に安心して通行できるようにすることが必要である。

### ● ほこみち運用後において公共空間の管理・活用を行うための組織体制、官民連携スキーム等の整理

狛江駅周辺エリアは、今回、駅高架下の商業施設がリニューアルされるにあたり道路空間と商業施設空間を一体的な空間として整備し、官民が連携して整備を進めていくこととしている。また、整備後の空間活用においては官だけではなく民の力を活かすことで、効果的、効率的な運営により市民へのサービスの拡充を図ることが求められる。

## 1-4 検討体制の整備

### (1) 庁内の検討体制

本調査は粕江市企画財政部 未来戦略室が実施し、歩行者利便増進道路制度に関する庁内各課の協力を得て検討を行った。

- ・担当部署：企画財政部 未来戦略室
- ・関係部署：まちづくり推進課、道路交通課、整備課、地域活性課

### (2) 官公庁の関係機関との協力体制

関係機関との協力体制は以下の通りとなる。

- ・交通規制協議：警視庁本庁交通規制課 安全施設第一係  
：調布警察署交通課 交通規制係
- ・消防協議：粕江消防署 予防課

### (3) 民間の関係者との協力体制

調査に当たっては(株)都市環境計画研究所に業務を委託した。また、以下の市内の企業や地元団体等の協力により本調査を行った。

(地元団体、各関係者の体制や連携状況等)	
■調査委託	
・企画、調査コンサルタント：(株)都市環境計画研究所	
・社会実験企画：(株)都市環境計画研究所	
■協力	
粕江駅周辺のまちづくりを考える会	ダイコマ FAMILIA
粕江駅南口地区まちづくり協議会	明治大学粕江インターナショナルハウス
	粕江消防署
元和泉一丁目町会	小田急電鉄
駄倉町会	フクビ化学工業株式会社
泉龍寺粕江市商工会	モクタンカン株式会社
粕江駅北口商工振興会	株式会社アクセルテック
粕江駅前親栄会	アーキテイメント株式会社
エコルマ区分所有者会	山名清隆
小田急商事	(国交省ほこみち広報アドバイザー)
	大西 幹治
小田急 SC ディベロップメント	コマツ ヒロノリ
コマエノミライ	橋本 佑紀夫
comaecolor	浅井 景
粕江市文化振興事業団	横橋 英司
「絵手紙発祥の地ー粕江」実行委員会	中村 洋太
泉の森会館	年光 順
株式会社和泉園	
ユニディ粕江店	

## 2. 本調査の内容

### 2-1 調査実施概要

本調査は以下のとおり実施した。

#### (1) 調査概要

調査名	狛江駅周辺における歩行者利便増進道路
コンセプト	狛江駅周辺の歩行空間における賑わいと滞留の創出
事業概要	<ul style="list-style-type: none"><li>・民間事業者において実施される高架下商業施設及び駅改札口の改修と歩調を合わせ、駅周辺地区にふさわしい都市基盤の形成</li><li>・沿道施設（駅・商業施設）と連動したにぎわいの形成や交流促進</li><li>・快適な歩行空間の形成に機能する都市基盤（駅前オープンスペース・道路空間）の更新</li><li>・事業スキーム、管理運営方法の検討</li></ul>
場所	狛江駅周辺市道（市道3号線・236号線・237号線・238号線）及び隣接する民地
効果検証	歩行者交通量・アンケート等
周知等	<ul style="list-style-type: none"><li>①紙媒体<ul style="list-style-type: none"><li>・市広報／イベント告知チラシ／ポスターなど</li></ul></li><li>②インターネット<ul style="list-style-type: none"><li>・特設サイト</li><li>・市ホームページ、ツイッター</li><li>・未来戦略室ツイッター</li></ul></li><li>③その他<ul style="list-style-type: none"><li>・小田急電鉄駅舎内のアナウンス</li></ul></li></ul>

#### (2) 調査・事業スケジュール

令和4年6月	企画立案
令和4年7月	社会実験場所確定 関係機関調整
令和4年8月	警察協議・参加者募集の開始
令和4年9月	道路使用許可申請
令和4年10月	広報等開始・歩行者交通量調査
令和4年10月22日～30日	社会実験実施
令和4年11月～令和5年2月	道路利活用方針の取りまとめ
令和5年3月	報告書作成



## 2-2 調査の流れ

本調査は以下に示すフローで実施する。



### 3. 事前調査

#### 3-1 対象エリアの基礎的條件の整理

##### (1) 現状の交通環境

狛江駅周辺エリアの現在の交通環境の状況は、駅北口はロータリーを囲むかたちで、歩行者エリアがあり、駅南口は改札からロータリーまでの歩行者エリアと平行にロータリーに繋がる車道が位置している。



図 3-1 駅周辺エリアの交通環境(現状)

また、駅周辺エリアの交通事故の発生状況を見ると、自転車が原因の事故が多く、特に、改札前の南北をつなぐ市道部分は2件発生している。当該箇所は、改札を出入りする人と南北を行き来する人が交差する場所となることから、歩行者と自転車の交通整理を行い、安全な通行を確保する必要がある。

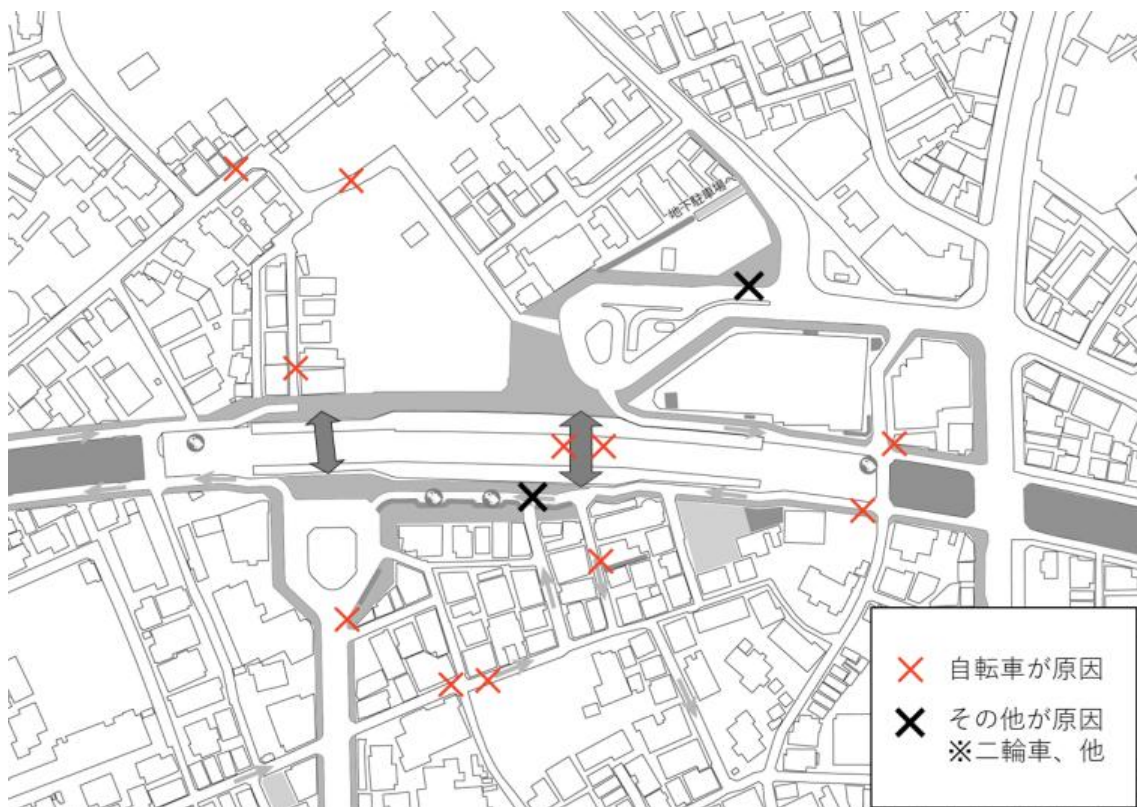


図 3-2 交通事故(負傷事故)発生状況:過去5年間(2017~2021年)の累計

出典:警視庁HP 事故状況別マップ(一般道路)

## (2) 歩道空間の現況

現状の駅周辺エリアの歩道空間の設置物等は、駅北側には歩道と車道を分離するボラードや植樹帯、ベンチ、駅前広場に噴水ステージが設置されている。一方、南側はボラードの他に駐輪場と喫煙所が設置されているのみとなる。南北通路は両端にボラードがあり、歩行者が利用できるベンチ等の設備は設置されていない。

その他の歩行空間の現状と問題点は下記のとおりとなる。

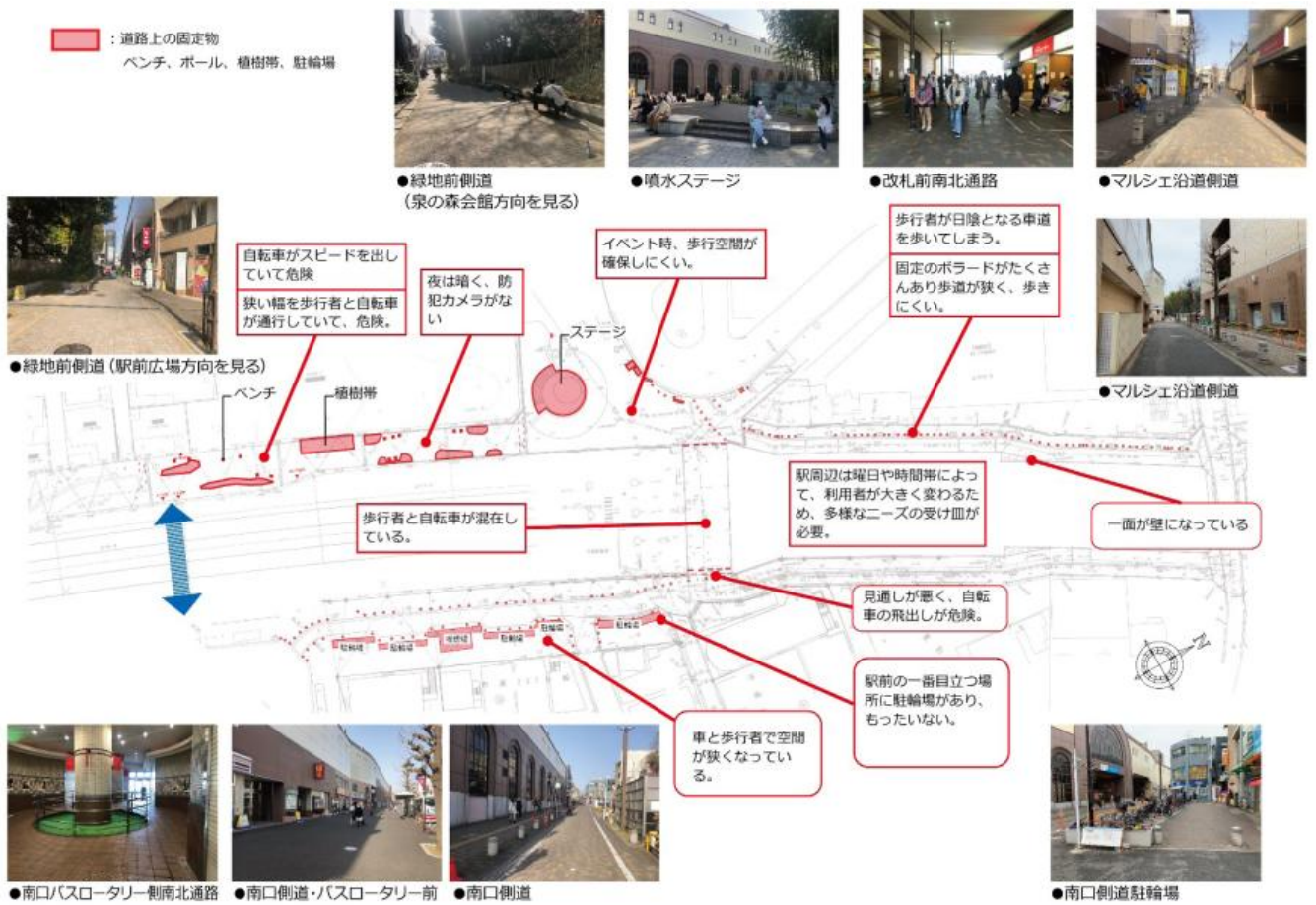


図 3-3 駅周辺の歩道空間の状況

## 3-2 事業者・出店者ニーズの把握

### (1) 調査方法

本事業を進めていくにあたり、将来的な民間による公共空間の管理・活用を見据え、市内でイベントやまちづくりに取り組む団体、町会、商工会等に対し、公共空間に対する出店意欲や公共空間を使ったあり方などについてヒアリングを行った。

以下の個人・企業・団体等の代表者を対象に概ね2週間に渡りヒアリングを行った。

No	団体名	ヒアリング実施日
1	元和泉一丁目町会	2022/05/17
2	泉龍寺	2022/05/17
3	狛江南口地区再開発協議会	2022/05/17
4	狛江駅北口商工振興会	2022/05/19
5	狛江駅前親栄会	2022/05/19
6	エコルマ区分所有者会（事務局：小田急商事）	2022/05/24
7	Comaecolor	2022/05/24
8	狛江駅周辺のまちづくりを考える会	2022/05/24
9	泉の森会館	2022/05/25
10	駄倉町会	2022/06/01
11	狛江市商工会	2022/06/21

### (2) 調査結果

ヒアリングの意見をまとめると、北エリアでは滞在空間や竹林の活用についての意見があった。一方、南エリアでは店舗と連携した空間づくりの意見があった。

#### [北エリア]

	全体共通	【駅前ステージ周辺】	【側道付近】
日常使 い 空間整 備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 屋外の滞在空間（ベンチ・テーブル）</li> <li>・ 『水』にちなむ地名を活かす</li> <li>・ 歩行者が街を回遊するように商店街と連動した企画</li> <li>・ （見栄えよりも）居心地のある空間</li> <li>・ デザイン性の高い屋台の設置</li> <li>・ 情報発信（電光掲示板）</li> <li>・ 若者が集まって時間を過ごし、青春できる屋外空間</li> </ul>	竹やぶが開けて家族でゆったり過ごせる場所	ライトアップで夜も明るいみち ツリーハウス 道路空間の椅子・テーブルの設置 ガス灯 フラワーバスケット

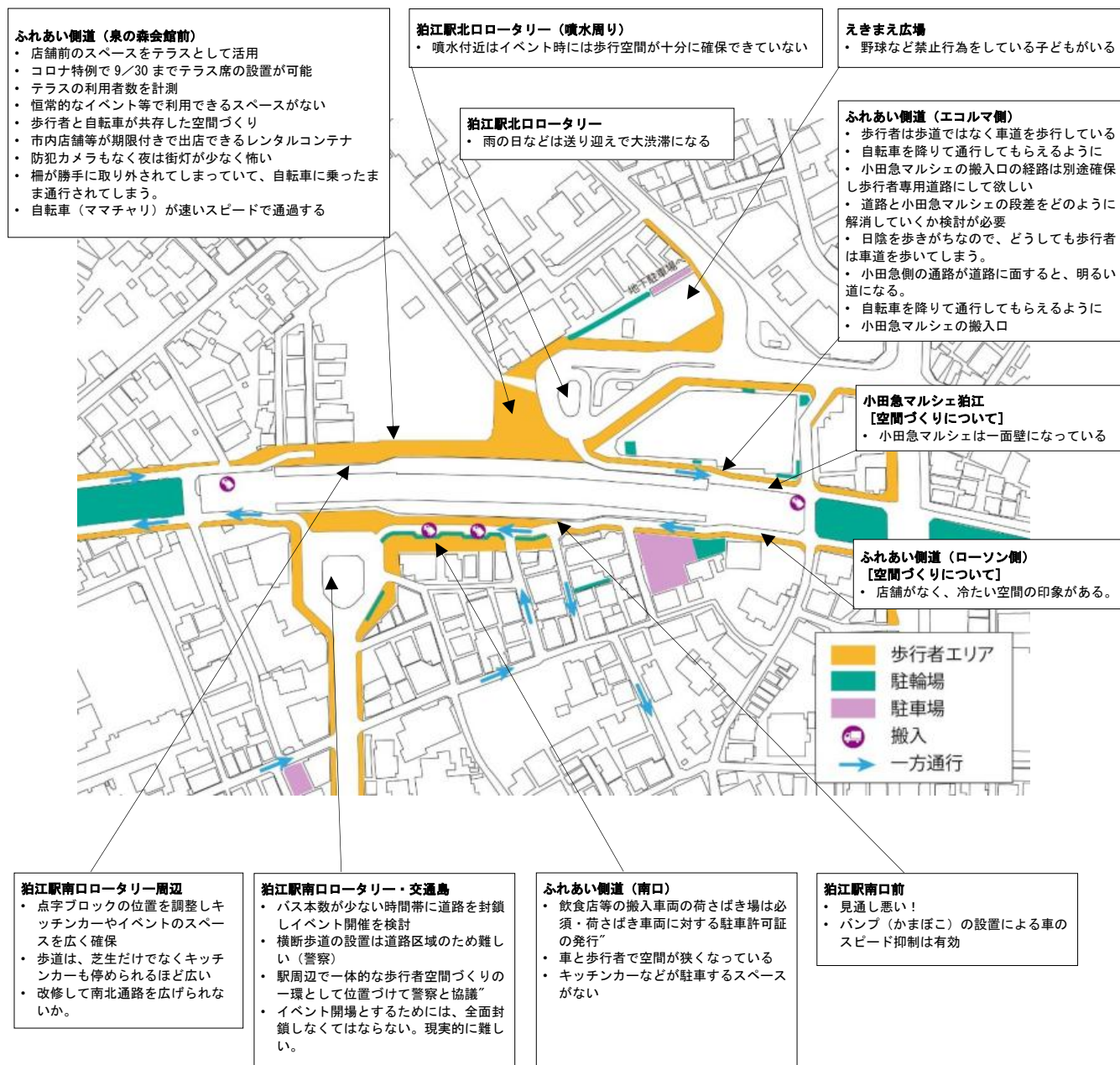
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バライエティーに富むキッチンカー（ファミリー向け惣菜販売や若者向け）</li> <li>・ まちのスキマを有効活用</li> </ul>		
イベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ キッチンカー（ランチ難民の解消）</li> <li>・ 市内店舗と住民の接点となる場（マルシェ）</li> <li>・ 循環経済型社会を体現…フードロスを解消（フードカー）</li> <li>・ 図書館イベント（店にちなんだ本を紹介）</li> <li>・ 住民が参加できて楽しめる催し（もちつき、フリマ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>竹林を活かす</li> <li>竹をつかった流しそうめん</li> <li>竹馬</li> <li>新しいアーティストを発掘する音楽祭</li> <li>駅前広場でのイベント（音楽、店舗出店）</li> <li>竹林をライトアップして大人が交流できる場づくり（スタンドバー）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キッチンカー</li> <li>マルシェ</li> <li>テイクアウト販売（既存個店）</li> <li>似顔絵イベント</li> <li>朝市</li> <li>受験生向けイベント</li> </ul>

[南エリア]

	全体共通	【南エリア全体】	【ロータリー】
日常使い 空間整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 屋外の滞在空間（ベンチ・テーブル）</li> <li>・ 『水』にちなむ地名を活かす</li> <li>・ 歩行者が街を回遊するように商店街と連動した企画</li> <li>・ （見栄えよりも）居心地のある空間</li> <li>・ デザイン性の高い屋台の設置</li> <li>・ 情報発信（電光掲示板）</li> <li>・ 若者が集まって時間を過ごし、青春できる屋外空間</li> <li>・ バライエティーに富むキッチンカー（ファミリー向け惣菜販売や若者向け）</li> <li>・ まちのスキマを有効活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路空間を塞いでベンチ・テーブルを置く座れる場所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人工芝</li> </ul>
イベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ キッチンカー（ランチ難民の解消）</li> <li>・ 市内店舗と住民の接点となる場（マルシェ）</li> <li>・ 循環経済型社会を体現…フードロスを解消（フードカー）</li> <li>・ 図書館イベント（店にちなんだ本を紹介）</li> <li>・ 住民が参加できて楽しめる催し（もちつき、フリマ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>商店街横丁（ビアガーデン）</li> <li>南北通路の店舗出店</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キッチンカー</li> <li>盆踊り</li> <li>モルック体験</li> </ul>

### 3-3 対象エリアの課題整理

狛江駅周辺エリアの課題を場所ごとに整理を行った。各場所の課題は以下の図で示すとおりとなる。



## 4. 対象エリアにおける歩行者空間活用の方向性の検討

### 4-1 歩行者空間活用の基本的方向性

粕江駅周辺エリアの道路を将来的に歩行者利便増進道路制度（以下、「ほこみち」という。）にもとづき歩行者専用道路化を行っていく。また、ほこみち指定を行ううえで、駅高架下商業施設の改修が令和5年度に行われることから、隣接する市道の整備を合わせて行う。整備においては、マルシェ部分と市道と一体的なデザインとし、歩行者空間を創出していくこととする。

ほこみち指定と同時に、歩行者専用道路部分については、交通規制を一部変更することにより、滞留空間を確保することやにぎわいの創出、また、整備によりバリアフリーな歩行空間の確保、歩行者と自転車の接触の解消、歩行者の利便増進を図ることを狙いとしている。

具体的な路線ごとの活用方針を下記にまとめた。

路線	活用の方向性
市道236号線 (エコルマ側道)	歩行者専用道路に変更。歩行者が滞留できるスペースを設け、イベント時などにキッチンカーや屋台の出店も行える滞留空間とする。
市道237号線 (南北通路)	歩行者専用道路に変更。自転車はおしチャリを義務化させ、駅利用の歩行者や南北を行き来する歩行者が安全に歩行できる空間とする。滞留空間にベンチを置き、待ち合わせの人などが利用できる空間を設ける。
市道238号線 (泉の森会館側道)	現状の自転車歩行者専用道路とし、自転車はおしチャリを推奨する。 滞留空間にベンチを設置し、イベント時の出店なども見越して屋台などが設置できるスペースを設ける。
市道3号線 (噴水ステージ)	現状の自転車歩行者専用道路とし、自転車はおしチャリを推奨する。 ステージはイベント時の歩行空間を確保できるかたちで配置する。また、ステージを兼ねたデッキは、イベントがない時は歩行者がデッキに腰を掛けられるような設えとし、駅前の顔となる空間づくりを行う。



## 4-2 歩行者空間の活用事例調査

社会実験計画の立案に参考となる全国で広がる道路空間等、公共空間の活用事例について、取り組み内容や今後の狛江市での組織作りも視野に、実施団体の組成などについて調査を行った。

調査した都内の3事例について次頁に記す。

事例①	ササハタハツ
活動概要と注目点	コミュニティ活動支援・運営事業として市民共創プロジェクトの実装に向けた支援、官民連携事業として玉川上水旧水路緑道と水道道路を軸とした公共空間利活用の検討やそれらの動向を踏まえたエリアビジョンの策定
対象範囲	笹塚・幡ヶ谷・初台・本町地域
取組時期	令和2年
組織形態	渋谷区・京王電鉄・(一社)渋谷未来デザイン・東急不動産

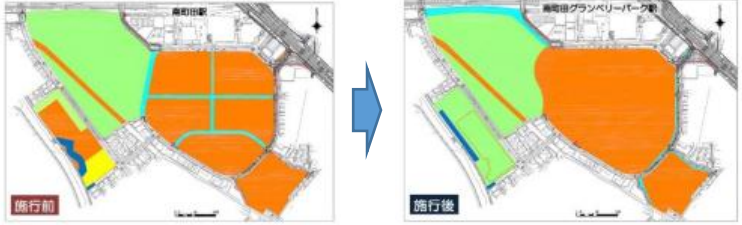

### ■取組事業

事業	内容
コミュニティ活動支援・運営事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フューチャーセッションで生まれたプロジェクト等の実装に向けた支援</li> <li>・渋谷区が主催するササハタハツ会議との連携</li> </ul>
官民連携事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玉川上水旧水路緑道と水道道路を軸とした公共空間利活用の検討</li> <li>・エリアビジョンの策定</li> </ul>
情報発信事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ササハタハツまちラボや地域の活動をエリア内外に広く発信。</li> </ul>
まちラボの持続的な収益確保を前提とした法人化に向けた検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちラボが持続可能な法人組織として持続的に機能するための人財・資金を確保する体制構築</li> </ul>



<b>事例②</b>	<b>南町田拠点創出まちづくりプロジェクト（町田市）</b>
活動概要と注目点	官民協働による公園と商業施設の一体整備とづくりと公園の管理運営
対象範囲	鶴間公園及びグランベリーモール・駅前広場
取組時期	2008年 検討会発足 2016年 プロジェクトの協定締結（市・東急） 2017年 整備開始 2019年 まちびらき
組織形態	町田市・東急

■取組事業

事業	内容
<b>土地区画整理事業</b> （町田都市計画事業 南町田駅周辺土地区画 整理事業）	地域の核となる都市機能更新を図るための駅前市街地の大街区画化及び基盤整備  商業施設と公園、スポーツ広場が道路で分断されていた街区を一体化し、南町田駅周辺のまちの活力維持を目指す。
<b>歩行者ネットワークの計画</b>	南町田駅南北間を連絡し、地域住民にとっての安全なアクセス路及び駅前の回遊動線となる歩行者ネットワークの整備 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">             駅や商業施設をつなぐ歩行者ネットワーク構築           </div>  ●にぎわいの創出 ●回遊性の向上 ●歩車分離 歩行者ネットワーク



<b>事例③</b>	<b>大森イーストテラスフェスタ（大田区）</b>
活動概要と注目点	道路空間や交通広場を活用した芝生、マルシェイベント。
対象範囲	大森駅東口駅前広場
取組時期	2020年～ 年1回大型イベントを開催し、月1回程度で芝生やベンチを置いた小規模イベントを開催する。
組織形態	実行委員会形式

### ■取組目的

地元商店会と町会で実行委員会を組織し、駅前広場のリニューアルオープンイベント及び広場の多様な活用の実践としてイベントを企画・運営。広場活用のポテンシャルを探るべく、様々な使い方を試みながら、地域のにぎわい創出に取り組む。

### ■取組事業

事業	内容
大森イーストテラスフェスタ	駅前広場を使いマルシェの出店や子ども向けイベントの開催、夜間の映画上映、音楽ライブなど、各回のテーマに合わせたイベントを実施する。 整備後の広場の活用方法の検証も兼ねて、使い方の工夫などを検討しながらイベントの企画を行っている。
しばふひろば	しばふひろばは、普段の駅前広場を誰もが気軽に使えて、どのような使い方があるかを探る目的で行っている。普段置かれていない椅子やテーブル・しばふなどを設置して、通行する人や地域の人がかつろげる空間を創出している。



## 5. 社会実験の計画・実施

### 5-1 対象エリアにおける社会実験計画の作成

#### (1) 社会実験の主旨

狛江駅周辺において歩きやすく居心地の良い空間づくりを目指すため、地域住民・団体・商業施設・市職員による官民連携協議会を立ち上げ、検討を進めながら、居心地の良い空間づくりの解決策として、狛江駅周辺の賑わいと快適な歩行空間を創出する「ほこみち制度（※歩行者利便増進道路）」の実現を目指して、10月の9日間にわたって、社会実験を行う。

今回の社会実験の結果をもとに、狛江に住む人、働く人、学ぶ人、来訪する人、すべての人にとって、歩きやすく居心地の良い快適な空間づくりの方向性を今年度中に取りまとめていく。

#### ●社会実験のコンセプト

狛江には、多様で多彩な人材が、豊富にいる（仮に、狛江人・こまえじん）

↓  
このような人たちは、狛江に対して、**地域に対して何らかの意義**を持つことをしたいと思っている。

↓  
どこで、なにができるか、最初のきっかけを提供出来ないか？

#### “狛江人”がいろんなことにチャレンジする場

1. 狛江駅前ほこみち空間を活用しプレイヤーとしての「**狛江人**」活動の場、実証・実験の場として提供する。
2. 社会実験は、そういった「**人材を発掘する**」ための**第一歩**とする。
3. 協議会から**テーマを示したうえで参加・活用**をしてもらう  
例) にぎわい、文化芸術、子育て、福祉、教育、地域産業（農業）

#### (2) 対象エリアにおける社会実験実施個所の検討

社会実験の実施場所は、検討の結果、駅を中心に下図の6カ所を実施個所とした。



### (3) 社会実験計画

#### 1) 企画の概要

<p>目的</p>	<p>ポストコロナ社会の新しい生活様式なども見据え国が創設した「歩行者利便増進道路（通称・ほこみち）制度」の導入を念頭に、対象エリアの公共空間を活用した多様な集客イベント等を実践し、日常と非日常の使い分けによる活用方法や利用者ニーズの把握、安全な歩行者空間の構築に向け、その効果や課題を検証することを目的とする。</p>
<p>名称</p>	<p>「KOMAE わくわくストリートプロジェクト」</p>
<p>コンセプト</p>	<p>狛江駅周辺の歩行空間における賑わいと滞留の創出</p>
<p>場所</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①泉の森会館方面側道</li> <li>・②噴水ステージ</li> <li>・③エコルマ側道</li> <li>・④南北通路</li> <li>・⑤南口バスロータリー前</li> <li>・⑥小田急南北通路</li> </ul> 
<p>期間</p>	<p>令和4年10月22日（土）～10月30日（日）</p>
<p>実施内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キッチンカーの出店や立ち飲みテーブル、テラス営業、屋台営業など</li> <li>・絵手紙教室</li> <li>・子ども向けイベント（チョークアート、ハロウィーン仮面づくりなど）</li> <li>・音楽ライブ</li> <li>・竹林ライトアップ</li> <li>・デザイナーWS/作品展示</li> </ul>
<p>検証項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共空間活用をしてもなお、安心安全に歩行できることの確認（流動量調査等）</li> <li>・道路等の公共空間活用の可能性（滞留空間利活用の検証）</li> <li>・ユーザー側のニーズを把握</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>■具体的な検証内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・什器やファニチャー等の空間配置の検証</li> <li>・人流の把握</li> <li>・夜間の“暗さ”への対策</li> <li>・交通：自転車スピード抑制</li> <li>・交通：イベント時の動線の確認</li> <li>・交通：南側道路への飛び出し抑制</li> <li>・交通：側道閉鎖による周辺道路への影響</li> </ul> </div>

### ◎一般向けイベントの企画概要

目的	公共空間に休憩・滞留スペースを作るとともに、今後の狛江の駅周辺のまちづくりについて議論や意見交換を行う機会を創出し、親子が楽しく過ごせる空間づくりを目的とする。		
テーマ	一般向けイベント		
ターゲット	会場に訪れる不特定多数		
催し物案	<p>■オープニングイベント（噴水ステージ：10/22のみ）</p> <p>分科会メンバー等及びスペシャルゲスト山名氏（国交省ほこみち広報アドバイザー）トークショー</p> <p>※登壇者候補 分科会メンバー など</p> <p>※市長の登壇</p> <p>■のんびりテラス（噴水ステージ：10/24～10/28 10:00～18:00）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・用意されたファニチャーでのんびりしてもらおう仕掛けづくり。</li> <li>・テラス席の設置場所の検討（休憩・滞留スペースの確保）</li> <li>・各日の設置撤去担当決め</li> </ul> <p>■アンテナショップ（噴水ステージ前：10/22～10/30 10:00～18:00）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・狛江の地場製品の紹介及び販売</li> </ul> <p>⇒商品の選定、仕入れ（声掛け）、販売（※K-Baseへの依頼）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健所申請</li> </ul>		
メンバー	分科会メンバー、市担当	統括	コンサル
	（全体装飾）分科会メンバー、市担当		
費用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーブル・イス等のレンタル費用、</li> <li>・消毒用アルコール等の除菌費用。</li> </ul>		
準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムの検討及び音響・映像機器の確保</li> </ul>		
関係者調整	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山名氏への講演依頼（→市より依頼）</li> </ul>		
雨天時対応	小雨決行。雨天の場合に備え、別途、講演会場の確保。		
感染症対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーブル・イス等の定期的な消毒。</li> <li>・ソーシャルディスタンスの確保。</li> <li>・手指消毒の実施</li> </ul>		

### ◎音楽イベントの企画概要

目的	狛江市の音楽の街、絵手紙発祥の地を含め、主に市内の個人・団体による音楽やアート、音楽、芸術に触れる機会を提供し、文化・芸術のまちづくりへの市民のコミットの強化とアーティストの公募を通じた新たな“狛江人”の発掘を目的とする。		
テーマ	文化・芸術		
ターゲット	地域住民・来街者		
会場	噴水ステージ、泉の森会館方面側道、小田急南北通路		
日時	10/22-23 10:00～17:00		
催し物案	<p> <b>■若手アーティスト 生ライブ（噴水ステージ）</b>            ・噴水ステージを中心に、アーティストによる音楽ライブを披露。            ・アーティストは公募と声掛けの両方。            ・出演団体の公募（チラシ作成）、プログラムづくり、音響関係の準備。         </p> <p> <b>■絵手紙教室（泉の森会館側道）</b>            ・絵手紙発祥の地実行委員会に協力いただき、絵手紙の講師による絵手紙教室を実施する。参加方法は先着。         </p> <div style="text-align: center;"> </div> <p> <b>■デザイナーズラボ（小田急南北通路）</b>            ・コマエデザイナーズラボに登録しているデザイナー・クリエイターに声掛け。作品展示のスペース提供、ワークショップ。         </p>		
メンバー	分科会メンバー、市担当	統括	コンサル
	（全体装飾）分科会メンバー、市担当		
費用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出演料</li> <li>・音楽機材費</li> <li>・音楽スタッフ代 5人×2日</li> <li>・絵手紙講師謝礼</li> </ul>		
準備	・当日レイアウトの検討		
関係者調整	・出演者との調整		
雨天時対応	音楽イベント・絵手紙教室は中止		

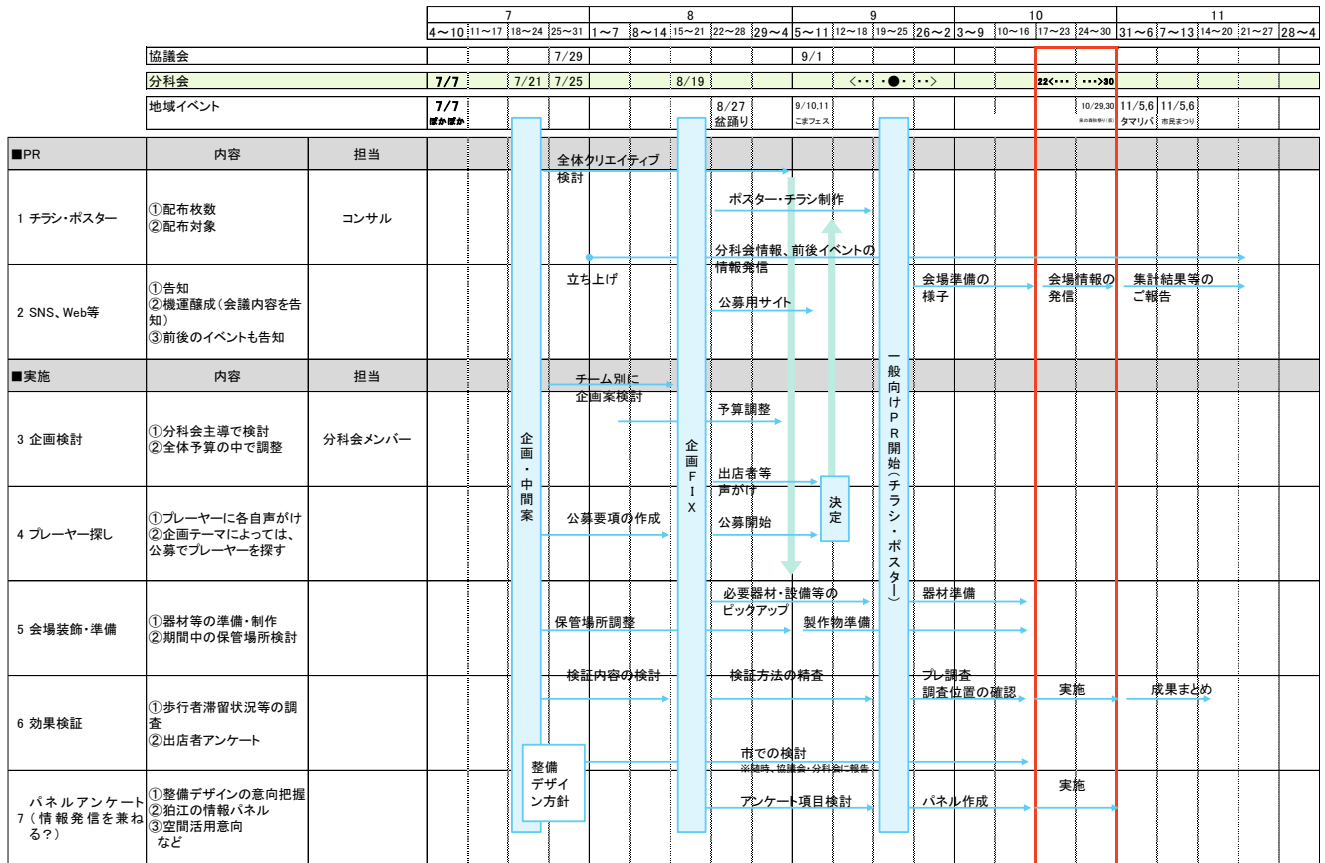




## ◎飲食の企画概要

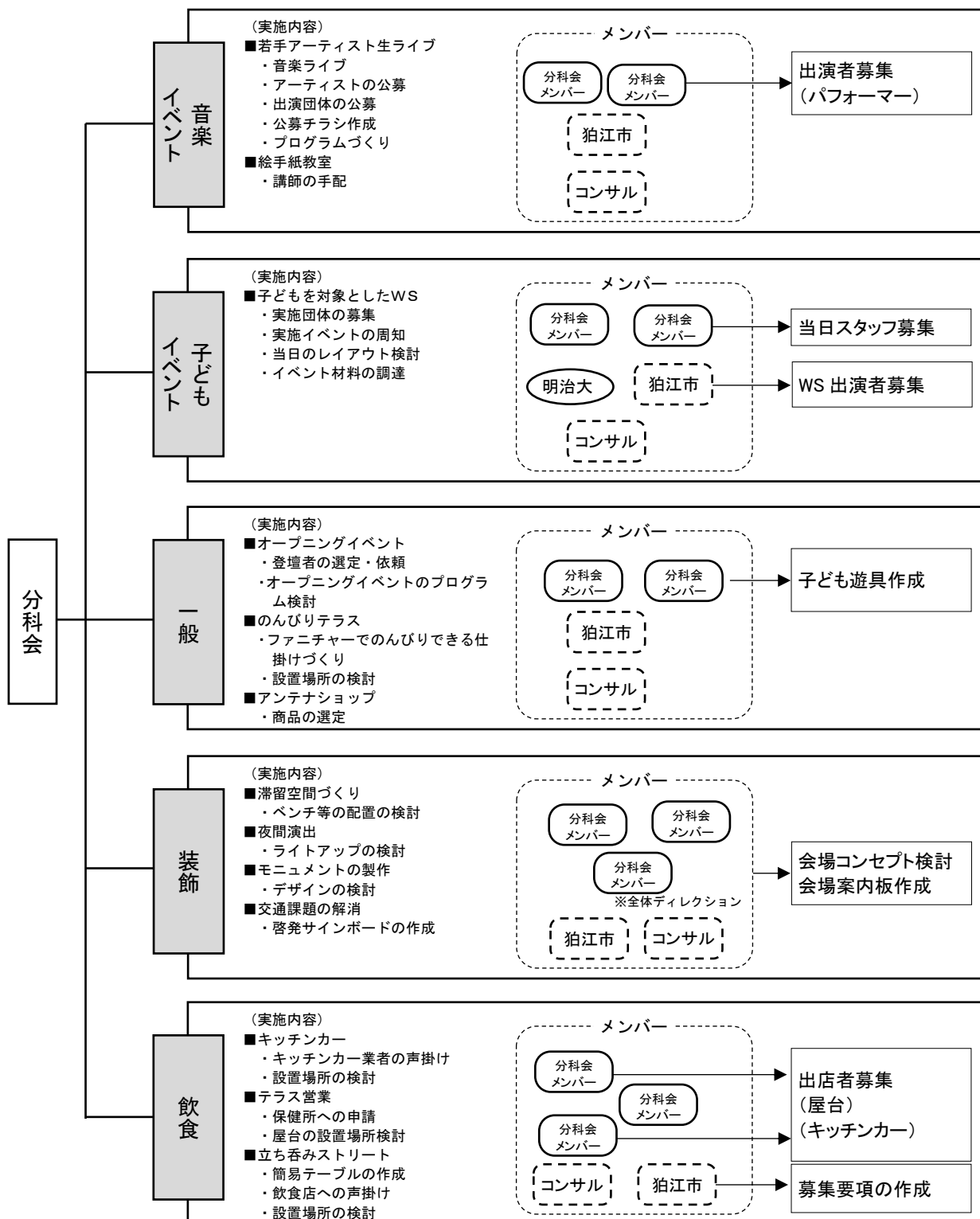
目的	<p>駅周辺にキッチンカーを設置し、昼時のランチや土日のイベント時の来客者等が飲食物を買い求め、駅周辺の公共空間の滞留スペースの利用につながることを狙いとし、駅周辺のにぎわい創出を目的に実施する。</p> <p>平日・土日・夜間の飲食ニーズ、滞留空間の利用状況(主に飲食利用)を検証</p>		
テーマ	飲食、にぎわい		
ターゲット	地域住民、駅利用者		
会場	泉の森会館方面側道（会館前・側道）、エコルマ側道、南口ロータリー		
日時	10/22-30 10:00～21:00		
催し物案	<p>■キッチンカー</p> <p>②泉の森会館側道：最大2台、③エコルマ側道：最大4台 ④南口ロータリー：最大2台</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キッチンカー業者の声掛け。(※市内業者優先)</li> <li>・設置場所イメージ…電源の位置、容量(泉の森テラスは泉の森会館・K-base から引き込み)、噴水裏</li> </ul> <p>■テラス営業(会館前～側道)</p> <p>※大庄水産、Vino uno、K-base、籠屋、WINETIP JAPAN、ゴダワリキッチン</p> <p>※時期的に昼の実施も選択肢に入る</p> <p>■立ち呑みストリート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・街灯や壁等に簡易テーブルを設置、各店舗でテイクアウトしたものを飲み食い。</li> <li>・設置場所の検討、周辺飲食店への声掛け、テイクアウトの周知</li> </ul>		
メンバー	分科会メンバー、市担当 (全体装飾) 分科会メンバー、市担当	統括	コンサル
費用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーブル・椅子レンタル費用</li> <li>・テーブル製作費</li> </ul>		
準備	・当日レイアウトの検討		
関係者調整	・道路管理者、警察、消防協議、保健所協議		
雨天時対応	・雨天中止		

## 2) 社会実験実施計画マスタースケジュール



#### (4) 社会実験の実施手法および体制

社会実験に向けて分科会を設置し、分科会のもとに各テーマごとチームを編成し、社会実験の準備などを行った。実施体制は下図のとおりとなる。



## 5-2 社会実験の実施・運営

### (1) 社会実験期間の状況

社会実験期間中は、日によっては雨で肌寒い日もあったが概ね晴天な日が続いていた。また、2回の週末とも天気は良かったこともあり、来場者の増加の要因となったことも推察される。

#### 1) 気象状況

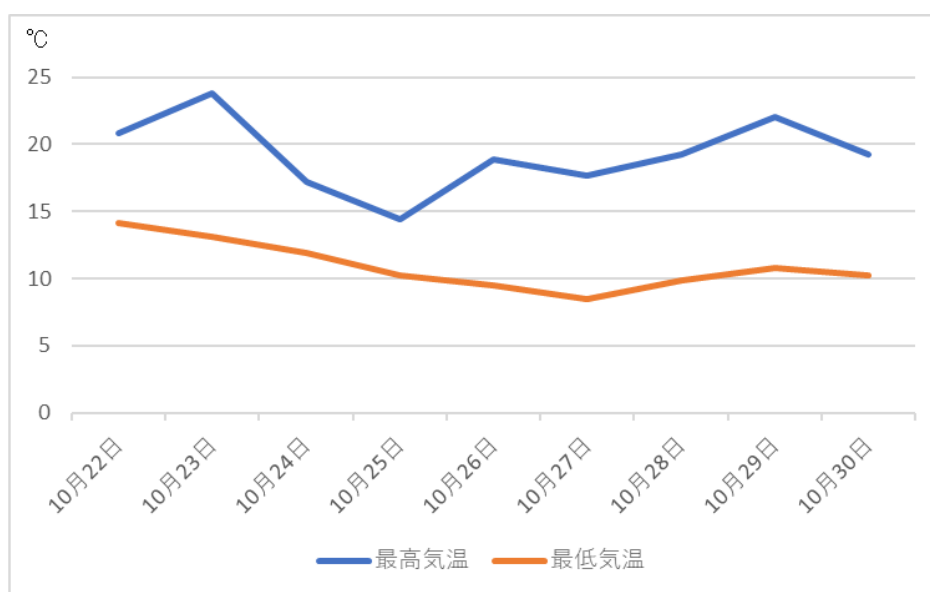


図 5-1 社会実験期間中の気象データ

日程	天気 (昼)	最高気温	最低気温
10月22日	曇り	20.8	14.1
10月23日	晴後時々薄曇	23.8	13.1
10月24日	曇時々雨	17.2	11.9
10月25日	曇	14.4	10.2
10月26日	快晴	18.9	9.5
10月27日	曇時々晴	17.7	8.5
10月28日	曇後晴	19.2	9.9
10月29日	晴	22	10.8
10月30日	晴時々薄曇	19.2	10.2

表 1 社会実験期間中の天候

#### 2) 来場者数

来場者数については、平日と週末で大きく異なり、平日はイベント等は行わなかったが、滞留空間の利用者を来場者数とし、週末はイベント参加者も含めた人数を来場者数として見積もった。今回の期間中の来場者数は約2万人と推定した。

## (2) 社会実験参加団体の管理運営

### 1) 一般

オープニングイベントでは出演者の誘導やステージの設営を行った。また、平日に行ったのんびりテラスでは、子ども向けの本や椅子、テーブルを設営し、子どもが大人と一緒に過ごせる空間をつくった。アンテナショップでは、狛江で取れた地場産品や地元コーヒーショップのコーヒーなどを販売した。

### 2) 音楽イベント

初日と二日目に噴水ステージを使った音楽イベントを昼の時間帯に実施した。また、噴水ステージ前の小田急高架の壁際で、絵手紙教室を開催した。音楽イベント時はステージ前が人だかりとなり歩行者の障害となったため、観客が多い場合は、交通整理を行い歩行空間を確保した。

### 3) 子どもイベント

子どもイベントはエコルマ側道、泉の森会館方面側道、小田急南北通路、南口ロータリーにおいて、各団体が主催するイベントを行った。場所によって、テントやテーブル、芝生などを設置した。また、噴水ステージではダンスイベントを行い、観客が多い場合は交通整理を行った。

### 4) 装飾

ステージ周りは竹を使った照明オブジェを配置した。また、泉の森会館側道のベンチは、何パターンか期間中に配置を変えながら、くつろげる配置を検討した。南口ロータリーは夜のにぎやかな雰囲気を出すために吊り下げ電球を用いて照明を設置した。また、本社会実験を紹介した案内サインや各会場の空間を説明したサインボードをデザインし、当日配置した。

## 5) 飲食・物販

地元キッチンカー業者等の協力のもと、キッチンカーや屋台が出店。曜日ごとに店舗数、出店内容を変更した。

### ■曜日・場所ごとの出店内容

場所/日時		10/22(土)	10/23(日)	10/28(金)	10/29(土)	10/30(日)
① 泉の森会館	昼	屋台(雑貨販売)	屋台(雑貨販売)		屋台(雑貨販売)	屋台(雑貨販売)
	夜	屋台 (食べ物・お酒販売)	屋台 (食べ物・お酒販売)		屋台 (食べ物・お酒販売)	屋台 (食べ物・お酒販売)
② 噴水ステージ	昼			キッチンカー (食べ物)		
	夜			キッチンカー (食べ物)		
③ エコルマ側道	昼	屋台(食べ物) キッチンカー (食べ物)	屋台(食べ物) キッチンカー (食べ物)		屋台(食べ物) キッチンカー (食べ物)	屋台(食べ物) キッチンカー (食べ物)
	夜	屋台(食べ物) キッチンカー (食べ物)	屋台(食べ物・お酒) キッチンカー (食べ物)		屋台(食べ物・お酒) キッチンカー (食べ物)	屋台(食べ物・お酒) キッチンカー (食べ物)
④ 南ロータリー	昼	キッチンカー (食べ物)	キッチンカー (食べ物)			キッチンカー (食べ物)
	夜	キッチンカー (食べ物)	キッチンカー (食べ物)		屋台(お酒)	キッチンカー (食べ物)







#### (4) 社会実験現地調査

社会実験期間中に現地で行った調査は以下の表に示すとおりとなる。  
結果については、次章の効果検証に記載した。

##### ■社会実験期間中の現地調査

調査	目的	方法
①来場者アンケート	駅利用者や地域住民にとって、駅前をより歩行者に快適な道路空間にしていくために必要なことなどを把握する。	街頭インタビュー：シール貼り付けをもって回答してもらう。
②参加団体アンケート	道路などの公共空間の使い方について、イベント時の出店においてどのようなことが必要かを把握する。	アンケート用紙：配布・記入。
③歩行者交通量調査	社会実験前後における、駅周辺の歩行者交通量の変化を把握する。	駅周辺にAIカメラを設置し、指定した範囲を通行する人の数を集計する。
④歩行者飛出し調査	南北通路から南側側道に飛び出す歩行者を計測し、車との接触の危険具合を把握する。	北から南側に出る通行者（歩行者・自転車）が左方向（車が進行してくる方向）を確認したかを目視により判断する
⑤押し歩き自転車実態調査	社会実験期間中、おしチャリ看板の設置や呼び掛けなどを行った場所で、実際に自転車を押し歩いた人数を把握し、啓発活動の効果を把握する。	録画した動画から目視により集計。 おしチャリを実施した人数を計測

■社会実験会場風景



泉の森会館側道 屋台営業



絵手紙教室



夜の噴水ステージでくつろぐ様子



キッチンカー販売



キッチンカー販売



のんびりテラス



噴水ステージにおけるパフォーマンス



南北通路の滞留空間



車道を使ったチョークアート



噴水ステージにおける子どもイベント



おやつキッチンカー



噴水ステージにおけるダンス発表



側道に並ぶ屋台



芝生を使った子どもの遊び場



小田急南北通路における子どもイベント



南口ロータリーにおけるイベント

## (5) メディアによる紹介

社会実験実施前におけるメディアでの紹介は、地域のケーブルテレビ (J:COM チャンネル) で紹介された。

社会実験実施後は、朝日新聞、TBS ラジオにおいて紹介された。また、市として期間中の風景を動画でまとめ、youtube 上で公開を行っている。

### 1) J:COM ケーブルテレビ等による紹介



J:COM チャンネル 調布・世田谷・狛江 twitter

### 2) 朝日新聞 (令和4年12月21日版)



### 3) TBS ラジオ「森本毅郎・スタンバイ！」

令和5年1月16日放送



<https://www.tbsradio.jp/articles/64661/>

4) 動画撮影



狛江市公式動画チャンネル

<https://www.youtube.com/watch?v=aBsUeawgFpo>

## 6. 結果分析

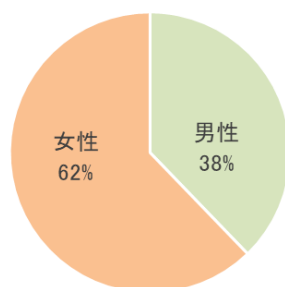
### 6-1 社会実験の効果検証

#### (1) 来場者アンケート

・アンケート結果概要

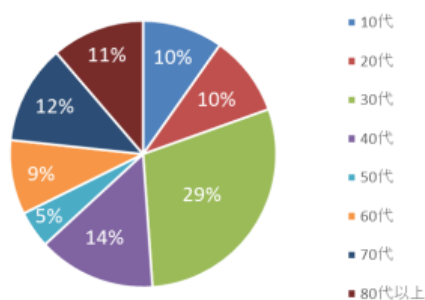
実施期間	令和4年10月22日、23日、29日、30日
アンケート対象者	来場者・駅周辺通行者
回答方式	アンケートパネル、壁面パネル掲示のQRコード読み取りWEB上から回答
回答数	135件（パネル回答118件 WEB回答17件）

問1. 性別はどちらですか？ (N=135)



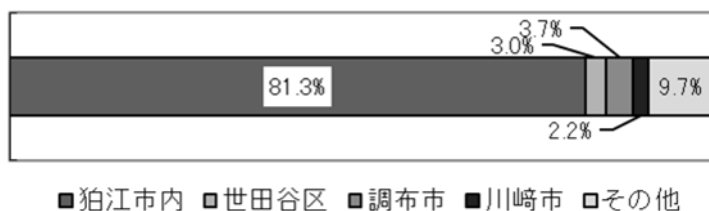
・回答者は男性が約4割、女性が6割。

問2. 年代はいくつですか？ (N=133)



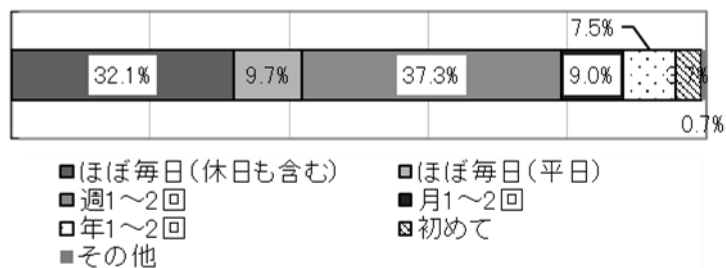
・回答者の世代は30代、40代が多い。10・20代が1割。

問3. お住まいはどちらですか？ (N=134)



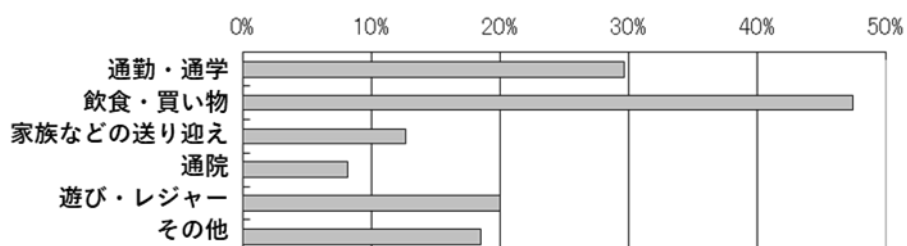
・回答者の8割が狛江市民。

問4. 狛江駅前をどのくらいの頻度で利用しますか？ (N=134)



・回答者の利用頻度は、「ほぼ毎日」が4割超。

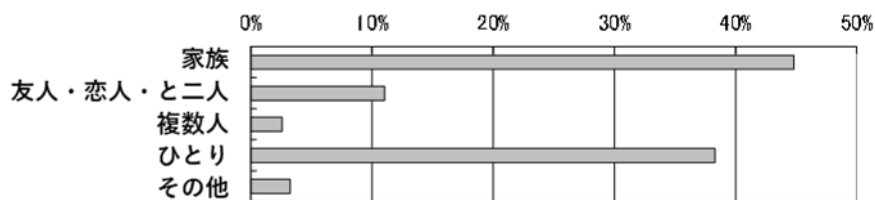
問5. 狛江駅前を利用する目的は何ですか？ (N=134)



・回答者の利用目的は、「飲食・買い物」が最も多い。



問 6. 普段、誰と狛江駅前に来ることが多いですか？ (N=135)



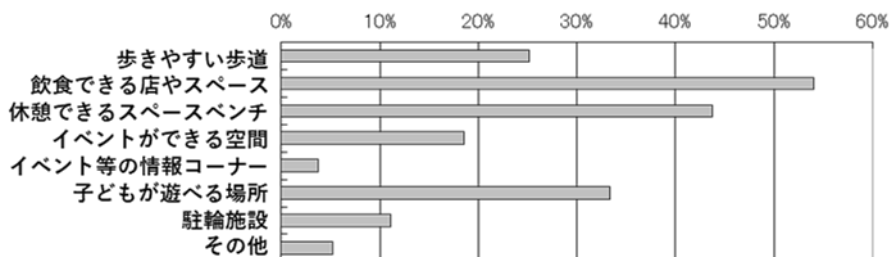
・回答者の利用形態は、家族利用とひとり利用が多数。

問 7. 狛江駅から目的地までの移動手段は主に何を利用しますか？ (N=135)



・回答者の移動手段は、徒歩が 5 割。自転車は約 2 割。

問 8. 狛江駅や駅周辺の空間に必要なもの、将来的にあると良いと思うもの (N=135)



・駅周辺に必要なものは、滞留できる飲食や休憩できるスペースを望む声が多い。

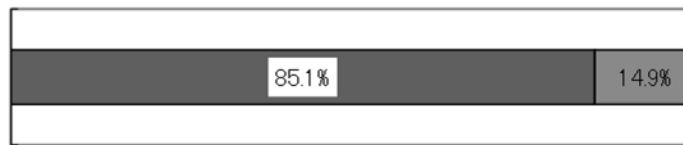
問 9. 滞留空間の滞在性の評価について (N=154)

対象の場所	回答数	おしゃべり	飲食	休憩	あそび	その他
泉の森会館 方面側道	33	18.2%	24.2%	42.4%	6.1%	9.1%
噴水ステージ	37	24.3%	8.1%	43.2%	16.2%	8.1%
エコルマ側道	23	8.7%	39.1%	30.4%	13.0%	8.7%
南北通路	40	15.0%	12.5%	62.5%	0.0%	10.0%
南口ロータリー	21	19.0%	42.9%	28.6%	0.0%	9.5%

回答「運している」多い ← → 少ない

- ・南北通路の「休憩」の評価が高かった。

問 10. おしチャリキャンペーンについて (N=94)



■ 賛成      ■ 賛成だが工夫を要する

- ・回答者の8割が賛成。

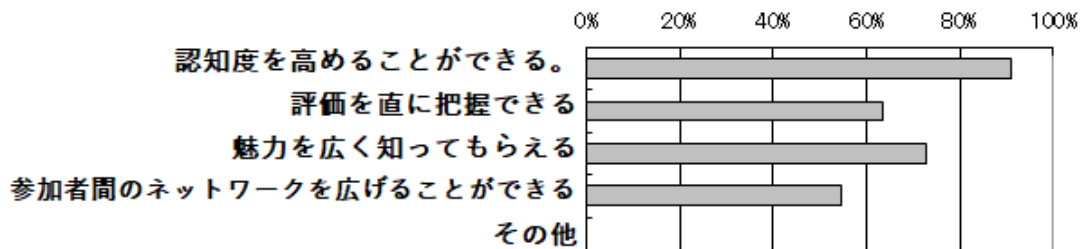
## (2) 参加団体アンケート

### 1) 音楽イベント

・アンケート結果概要

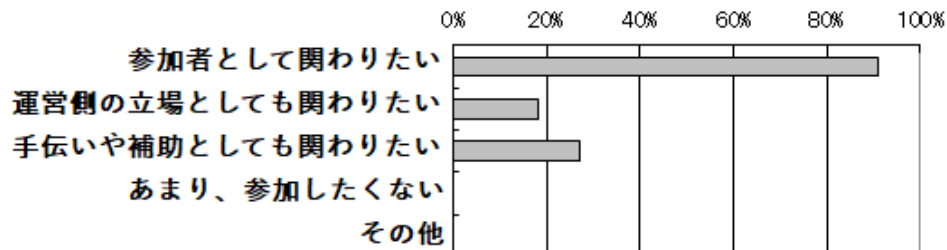
実施期間	令和4年10月22日、23日
アンケート対象者	音楽イベント出演者
回答方式	アンケート用紙への記入
回答数	11団体 (回収率: 68.8%)

#### 問1. 出演理由・期待したこと (N=11)



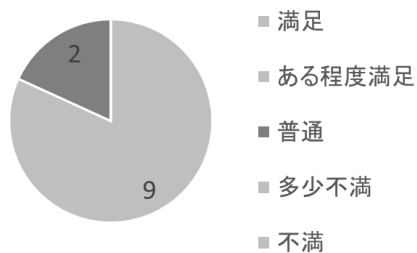
・今回のイベントで認知度を高めることを期待した人が最も多かった。

#### 問2. 参加意向を教えてください (N=11)



・参加者として関わりたいが最も多く、運営側や手伝いで関わりたい方もいた。

問3. 出演した場所（噴水ステージ）に対する評価について (N=9)



(意見等 ※道路デザインに関する内容について抜粋)

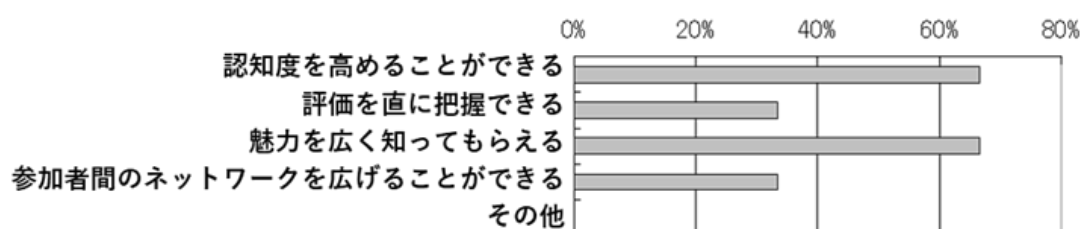
- ・改札前の南北通路に椅子が置かれたこと。歩き疲れても休憩場所がない高齢者には駅前に腰をかけられる場所が多いほど優しく有り難い。
- ・エコルマ側道に人工芝を敷いて「のんびりテラス」として開放したのは良かった。お子様が靴を脱いで積木等で遊べるスペースがあるのはとても良い。
- ・狛江ののんびりとした居心地の良さと、住みやすさを感じることが出来た。

## 2) 子どもイベント

### ・アンケート結果概要

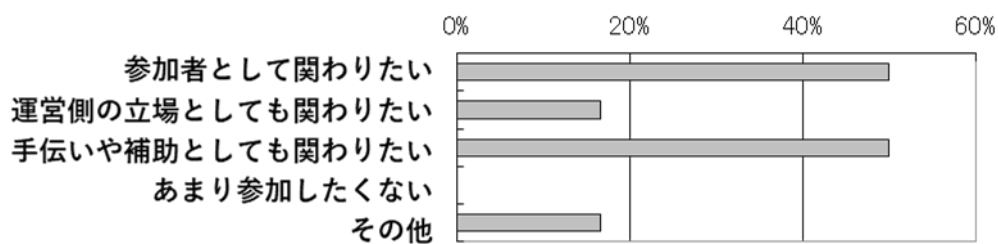
実施期間	令和4年10月29日、30日
アンケート対象者	子どもイベント出店者
回答方式	アンケート用紙への記入
回答数	6団体（回収率：75%）

#### 問1. 出店理由・期待したこと（N=6）



・認知度を高めること、魅力を広く知ってもらえることを期待した人が最も多かった。

#### 問2. 参加意向を教えてください（N=6）



・参加者として関わりたい、手伝いで関わりたい人が最も多かった。

問3. 出店した場所（噴水ステージ）に対する評価について (N=6)



(意見等) ※空間についてのご意見

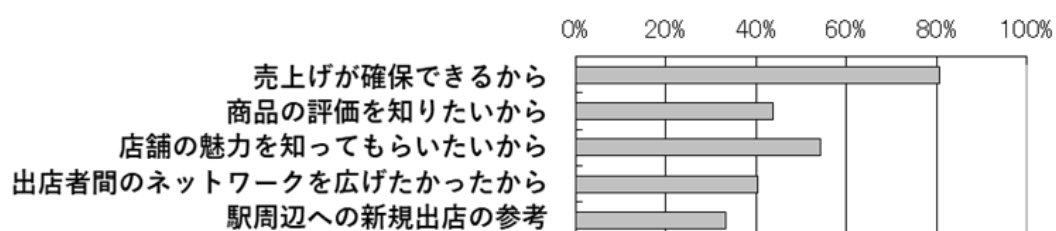
- ・住んでいる狛江市に貢献でき、嬉しく思った。
- ・息子たちと参加することで、子ども達への教育にもなった。子ども達にもボランティアする側にもできる。
- ・人が集まって活気があった。
- ・普段の活動では交わることがない障害者、医療ケア児と関わり、活動を外で行う意味、アウトリーチの必要性を感じた。
- ・噴水前広場がガランとしていてくつろげないと感じた。少し大きめの植物や、パーテーションがあると落ち着けそう。

### 3) 飲食・物販

#### ・アンケート結果概要

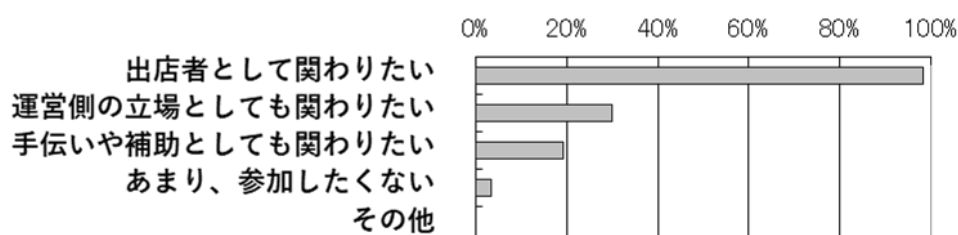
実施期間	令和4年10月22日、23日、28日、29日、30日
アンケート対象者	キッチンカー及び屋台出店者
回答方式	アンケート用紙への記入
回答数	57件（回収率：80.3%）

#### 問1. 出店理由・期待したこと (N=57)



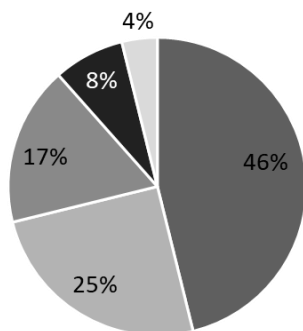
・売上が確保できることと回答した人が最も多かった。

#### 問2. 参加意向を教えてください (N=57)



・出店者として関わりたい人が最も多かった。

問3. 出店した場所に対する評価について (N=57)



■満足 ■ある程度満足 ■普通 ■多少不満 ■不満

(出店した場所に対する評価)

- ・場所によっては風が強く人が留まらない。
- ・お客の動線が曖昧。広場から泉の森会館やエコルマ側に人が流れない。
- ・人通りが少なかった。
- ・人流のメインストリート沿いではない場所だった。
- ・駅からだとキッチンカーの死角になり店舗が見えなかった。
- ・もう少し長時間出店したい。
- ・電源の確保ができるとありがたい。
- ・通路でたくさんの人に見てもらえた。一定の集客があったため。
- ・(エコルマ側道の) 一番奥の出店場所で広場などから見えにくい。人流が少なくて立地的に不利。

問4. 出店による売上 (N=53)

- ・屋台の平均売上額は約3万円、キッチンカーは約5万5千円となった。

■出店店舗の売上額

		22日	23日	28日	29日	30日	平均
屋台	売上額(円)	34,014	26,763	—	29,439	31,687	30,583
	台数	11台	13台	—	11台	13台	—
	最大売上額(円)	65,000	72,500	—	61,800	65,180	—
	最小売上額(円)	13,600	9,500	—	9,500	15,000	—
キッチンカー	売上額(円)	66,810	52,550	35,833	46,240	68,240	55,240
	台数	5台	5台	3台	5台	5台	—
	最大売上額(円)	140,300	69,800	55,000	70,000	102,950	—
	最小売上額(円)	18,990	29,850	18,550	32,500	35,750	—



## ■販売品目

六百年ひのき、揚げバナナ、日本酒、肉球マドレーヌ、赤ワイン、焼酎、秋刀魚、広島焼、牛肉ごぼう、楽器ミニチュアアクセサリー、陰干しの赤ワイン、ワイヤーターバン、ロングポテト、ミート on ライス、まな板、プロシュート、フランクフルト、ひのき湯、ビーズアクセサリー、ピアス、ハンバーグカレー、ハンドマッサージ、パンセット、ハリケーンポテト、バナナチョコマフィン、バナナオレオマフィン、バッヂ、バッグチャーム、ぬいぐるみ(1990年代のヴィンテージ品)、ナシゴレン、チョコバナナ、チーズドッグ、ダブルチョコマフィン、たこ焼き、ダークセゾン、スパークリングワイン、シラスのピザ、キッシュ、カレーパン、かご Bag、カオマンガイ、ウッドフォト、うずら、ウイスキー、インドネシア焼きそば、インドネシアラーメン、イチゴ大福串、slam dang

### (3) 歩行者交通量調査

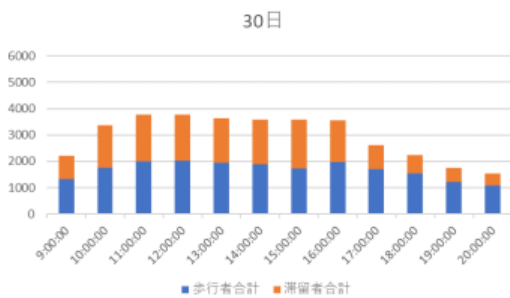
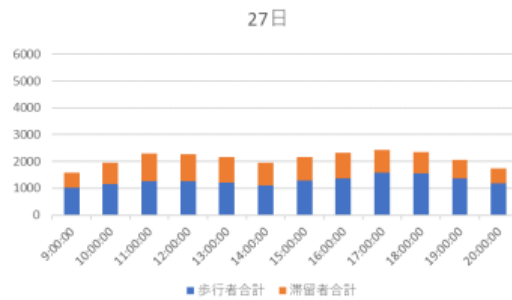
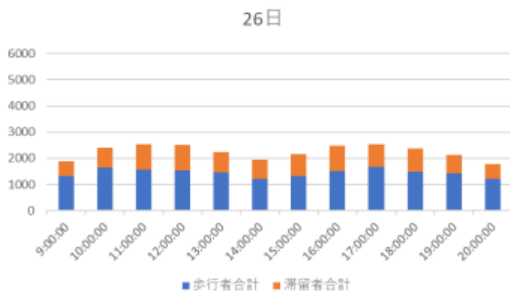
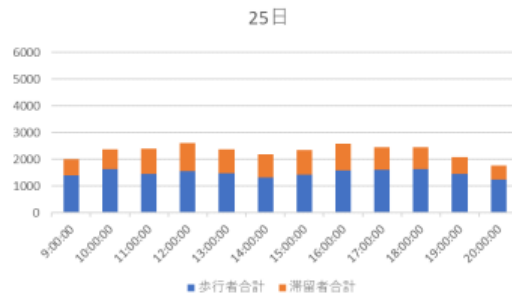
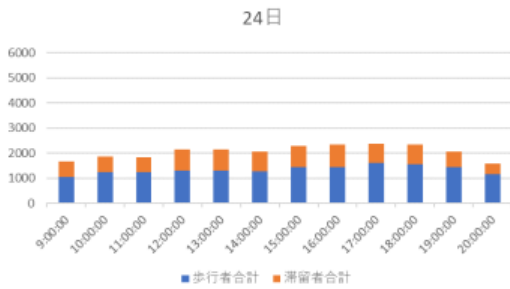
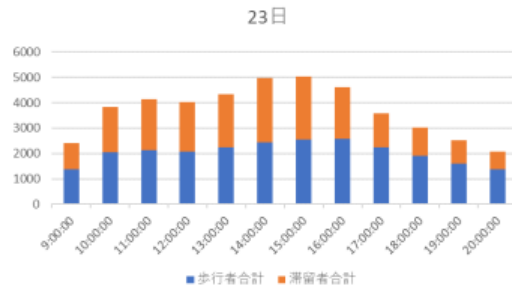
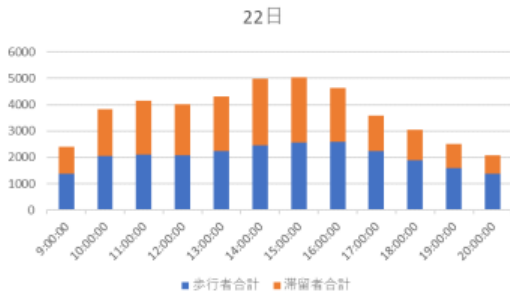
#### 1) 実施概要

目的	平常時、イベント時の平日・休日の人流を把握し、狛江駅周辺においてほこみち制度を適用しても交通環境の問題について検証を行う。また、道路における出店やイベントによって生まれる人の滞留により交通環境が阻害されないかどうか検証を行う。更には、通行者の属性を調査し駅周辺の賑わい形成に向け、道路の利用状況を把握する。
調査期間	令和4年10月15日(土)～10月30日(日)の9時～21時 平常時：10月15日(土)～10月21日(金) 10月31日(月)～11月6日(日) イベント時：10月22日(土)～10月30日(日)
調査内容	AIカメラにより通行者の数、属性の状況を計測する。
調査地点	AIカメラを調査範囲内の8箇所に設置し計測を行う。
機器の設置	機器は屋外用7台、屋内用1台を設置する。

#### 2) カメラ設置地点



・社会実験期間中（10/22～10/30）の定点 AI カメラによる歩行者交通量の検証



社会実験期間中の会場の歩行者の交通量をみると、イベントのあった土日の中は概ね4千~5千人/時の交通量であることが分かった。

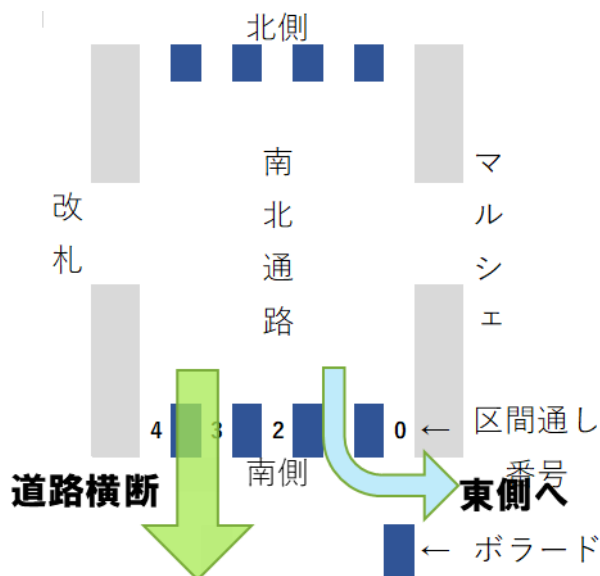
一方、イベントの無い平日は、概ね2千人/時ということがわかった。

また、土日のイベント時は滞留者の割合は平常時よりも全体的に多いことがわかった。

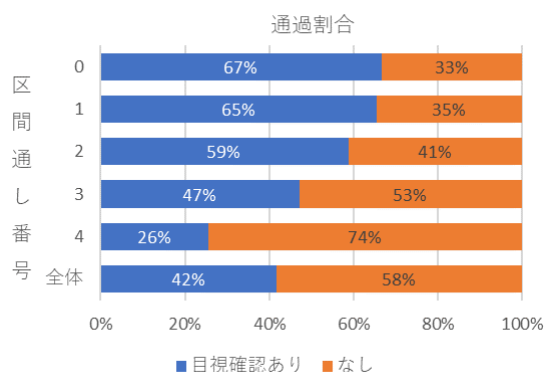
#### (4) 南北通路飛出し実態調査

##### 1) 実施概要

目的	南北通路から歩行者が飛出し、側道を通過する自動車との接触事故が懸念されていることから、目視調査により歩行者飛出し時の検証を行う。
調査期間	令和4年10月23日(日) 13:50~17:10 令和4年10月29日(土) 11:00~16:40 ※各日とも1時間ごとに30分間の計測を行った。
調査内容	北から南側に出る通行人(歩行者・自転車)が左方向を確認しているかどうかを目視により観察調査した。
調査地点	南北通路南側の側道との接続部分(※下図参照)



■左方向を確認した歩行者の割合



#### 【結果】

- ・道路横断する人が多い。そのうちの多くの人が安全確認を行わない。
- ・西側に行く人は、安全確認を行わない傾向が強い(東側に行く人は、注意をしている。)

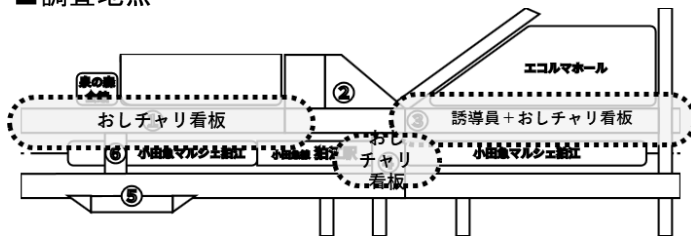
横断する人に対して、東側からの車への注意喚起を行う方法(ミラーやサイン、スピーカーによる注意喚起等)が必要。

## (5) 押し歩き自転車実態調査

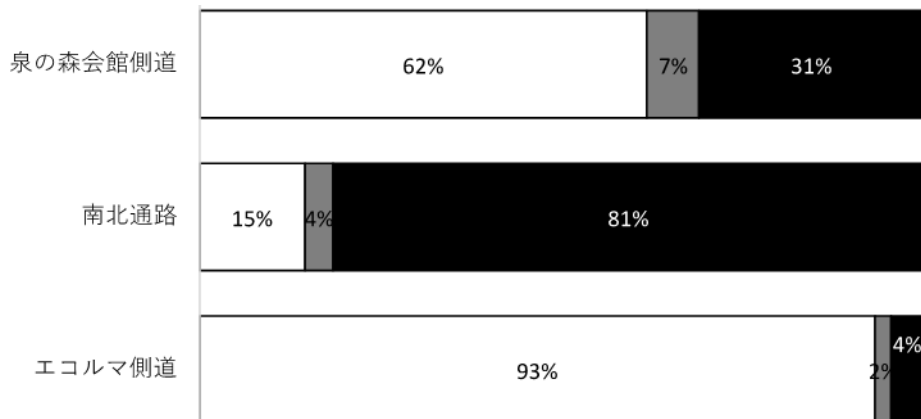
### 1) 実施概要

目的	社会実験期間中のおしチャリを推奨する区間において、おしチャリの啓発活動の効果測定。
調査期間	イベント時：令和4年10月22日（土）～30日（日） 平常時：10月31日（月）～11月6日（日） イベント時、通常時で場所ごとに人通りの多い1時間（平日・休日）で測定。
調査内容	録画した動画から目視により押し歩きと自転車に乗った人を集計。
調査地点	泉の森会館側道、エコルマ側道、南北通路
機器の設置	歩行者交通量調査時の録画データを使用。

#### ■調査地点



#### ■実測データ



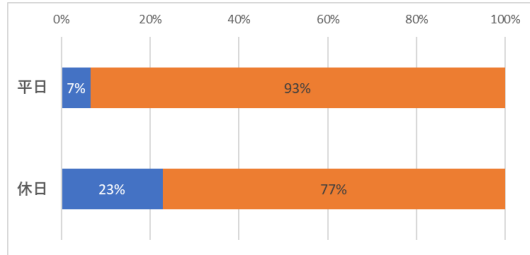
※エコルマ側道については現在観測時間が短いため今後さらなる精査が必要です。

□ 走行 ■ 押し ■ 跨り

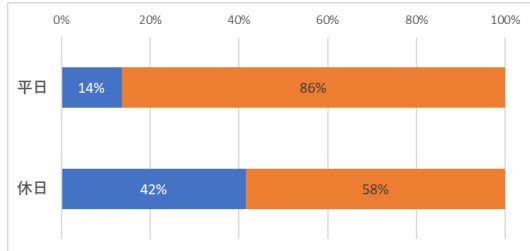
■おしチャリ時間当たりの集計

泉の森会館

通常時

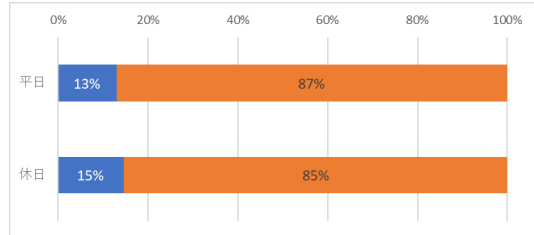


社会実験時

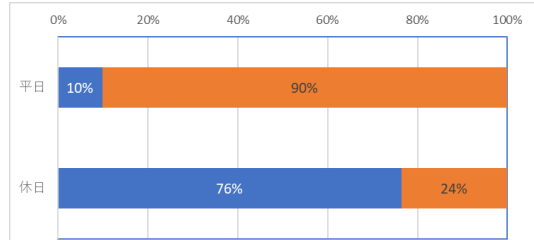


エコルマ奥

通常時

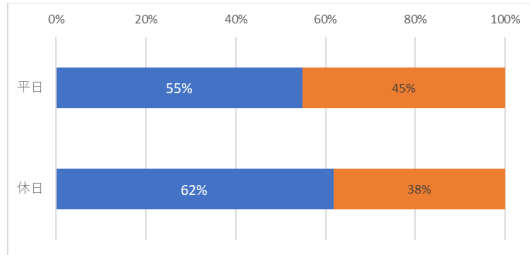


社会実験時

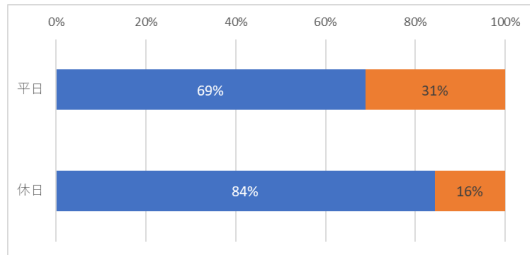


南北通路（北）

通常時



社会実験時

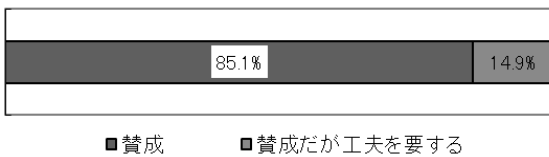


凡例

- おしチャリ
- 走行

■ アンケートデータ

押しチャリに対する賛成・反対について (N=94)



子どもがいないときは降りずにさっと通りたくなる
子供をのせてかきもの荷物をのせて自転車を押すのは大変自転車専用の道をつくってほしい
電動チャリだと重たく、押し歩きが危ない乗った方が安全な場合もある時間帯or自転車専用道
ベンチの数増やした方がよい。
自転車、歩行者の他にもキックボードなどスピードの違う乗り物があるのですみ分けが必要
全エリアおしチャリにするのではなく分けてほしい

## (6) 考察

### 1) 来場者の利用状況

イベントの来場者や駅利用者へのアンケートでは、回答者の属性は、男性が4割、女性が6割、世代は30、40代が多かった。週末のイベントは子ども向けのイベントが多く、子どもの親世代にあたる30代、40代の女性が多かったことが要因と考えられる。また、回答者の8割が市民であることから、日常やイベント時でも市民の利用者が多かったことが窺える。

また、駅の利用頻度と目的の結果からは、ほぼ毎日、買い物や通勤通学で利用する人が多く、狛江駅が市民の中心的な場所であり、利用するうえでも欠かせない場所となっていることが窺えた。

駅を降りてから市内への目的地までの移動手段は徒歩が半数で、自転車が約3割と徒歩・自転車利用の人が多く、駅周辺に住んでいるか駅周辺に通勤通学している人が多いことがわかった。

駅周辺の滞留空間については、飲食できるスペースや休憩できるベンチを望む声が高く、特に南北通路に休憩スペースがあることが適しているという意見が多かった。

今回の社会実験で南北通路や側道にベンチを設置してわかったことは、駅周辺にベンチ等の滞留スペースがあれば一定の利用者がいることが明らかとなった。

### 2) 駅周辺の公共空間を利用ニーズ（参加団体アンケート）

参加者の今後の参加意向については、音楽や飲食・物販での参加者は、今後も参加者としての関わりを持ち続けたいことが窺えたが、子ども向けイベントの参加者は手伝いや補助として関わりを持ちたいという意見も多かった。今後の公共空間の活用を行っていくうえで、地域の人による管理運営により地域のにぎわいを創出していくためにも、子ども向けの活動などを行うこれらの人を中心に組織をつくっていくことが考えられる。お店や音楽出演者はこれらの周りにはいる関係組織として協力しながら今後の運用を行うことも考えられる。

### 3) 駅周辺の歩行者交通量

社会実験期間中の歩行者交通量は平日は概ね2,000人/時の通行に対し、イベントがあった週末の土日（2回）は倍の4,000人/時の利用者がいたことがわかった。

歩行者の交通量で今回特に問題となる箇所は、噴水ステージでのイベント時に歩道の歩行空間が確保できなくなることであった。今回はスタッフの誘導により大きな問題にはならなかったが、この時の時間帯の利用者は4,000人/時となることから、今回以上に人を集めるような場合は更なる対策が必要と考えられる。

#### 4) 南北通路の飛び出し抑止の対策

過去に車の速度抑制を目的にバンプを設置する社会実験を行ったが、予想するほどの効果が出なかったことや、元々、側道を利用する運転手は地元の方が多く、歩行者の飛び出しがあることはわかっており、歩行者に対する注意を払っているということであった。それでも歩行者が飛出してくるといことが課題となっていた。

今回の調査では、南北通路から南側へ横断する人は西側（区間通し番号4側）へいくにつれて左から来る車への注意を怠る傾向にあることがわかった。このことから、車の速度抑制を図っても歩行者が左右確認をしない以上、同箇所の飛び出し抑制につながらないことが明らかとなった。

そのため、対策として考え得るものは、南側の出る部分の幅を東側に狭め、歩行者側に視認性が悪く危険な個所という認識を持たせるような工夫や現在あるボラードを改良して、左右確認を行うように仕向けるようにするなど、さらなる工夫が必要である。

#### 5) 押し歩き自転車を促す啓発活動

狛江駅周辺の側道や南北通路は、現状、自転車歩行者専用道路として扱われており、区間の端にはボラードが設置され、自転車が速度を出したまま入れないようになっている。しかし、自転車を降りなくてもボラードを通過できてしまい、特に泉の森会館前側道は、傾斜もついていることから自転車の速度が速く歩行者にとって危険な状態となっている。また、改札前の南北通路においては、改札から商業施設に向かう歩行者と南北を行き交う自転車が交差するなど人と自転車の接触が懸念される。

今回の社会実験期間中は、おしチャリをお願いするポスターをボラードや街灯に設置し、南北通路の両入口に大きなおしチャリのアイコンをかたどったサインを設置した。また、日中のイベント中は警備員による声掛けを行い、おしチャリの啓発活動を行った。

目視による観測調査からは、社会実験の前後でおしチャリをする人が増えたことがわかった。今後の歩行者専用道路となった場合、自転車に対しては啓発活動を行うことが大きな効果的な手段であることが考えられる。



## 7. 事業手法・スキームの整理・検討

### 7-1 事業手法、運用体制

狛江駅周辺の賑わい創出に向けて、駅周辺エリアのほこみち対象区域を一括占有（一次占有）する「地域まちづくり法人」を設立し、占有区域を管理運営する。

駅周辺エリアのマネジメントを行うなかでの全体方針や重要事項を審議・調整する「エリアマネジメント協議会」を設置し、地域まちづくり法人はその意見を聴いて活動を行っていく。

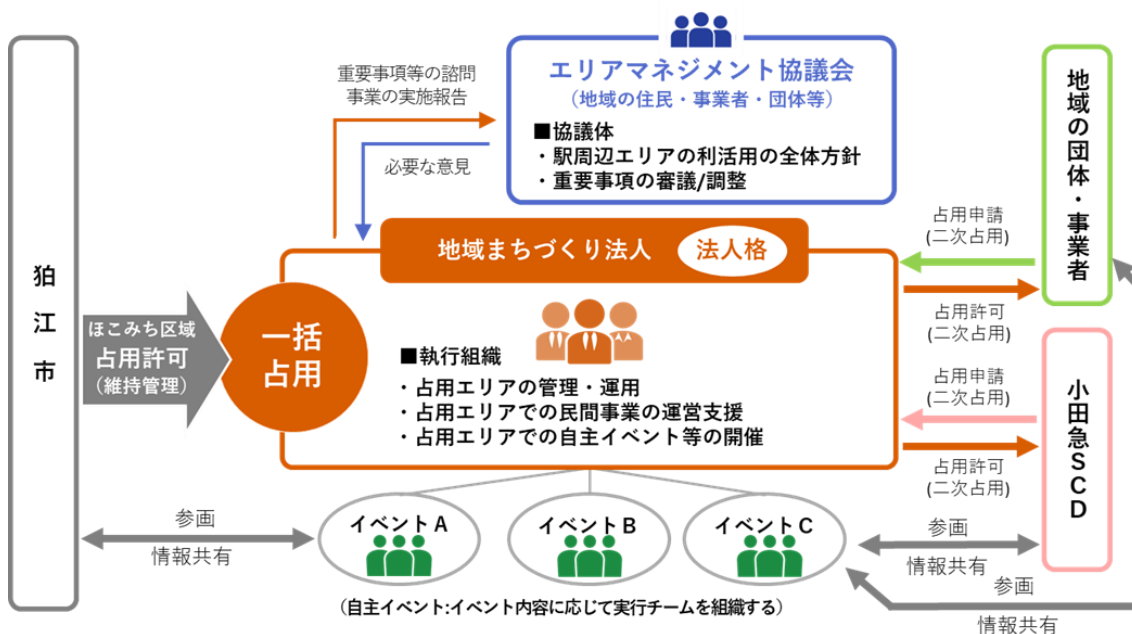


図 7-1 運用体制のスキーム

## 8. 狛江駅周辺エリア道路利活用方針（案）のとりまとめ

### 8-1 策定の経緯

狛江駅周辺エリアは、およそ 25 年前の小田急線の連続立体交差化に合わせて周辺が整備されて以降、住宅都市として発展してきた。また、狛江駅は通勤通学利用者をはじめ、たくさんの方が利用するエリアとして賑わってきた。

これまで駅北口の駅前広場の噴水ステージでは、様々なイベントや催しを行っており、駅前の空間を活用してきた経緯がある。

今回、駅周辺の快適な歩行空間を創出するに当たり、駅周辺の価値を向上させることを第一としながらも、駅や線路の高架下などの限られた区域だけでなく、駅の周りや少し広いエリア、狛江市という街の価値の向上につながることを基本に進めていくこととしている。

市としては駅前の歩行空間をにぎわいのあるお店が並び、大人も子どもも楽しく歩ける空間とし、さらに、お年寄りや子ども連れにも優しい居心地が良く、ゆったりと時間を過ごすことができる空間となるよう作り替えていくことを目指している。

狛江市の顔として、水と緑のまちの特徴が表される空間、地域の人たちに愛される空間になるよう、今回の道路整備を機会に、駅周辺の快適な歩行空間を創出していく方針として、道路利活用のあり方をとりまとめたものである。

#### ■策定の経緯

年月	内容
昭和 62 年 8 月	狛江弁財天池特別緑地保全地区指定
昭和 63 年 3 月	北口地区市街地整備の基本計画を策定
平成 8 年 3 月	狛江駅北口交通広場供用開始
平成 9 年	小田急線高架化事業完成
令和 2 年 10 月	コロナ特例によるテラス営業の実施
令和 4 年 6 月	「狛江駅周辺の快適な歩行空間の創出に向けた官民連携協議会」を設置
令和 4 年 6 月	「狛江駅前における快適な歩行空間の創出に向けた覚書」締結
令和 4 年 10 月	狛江駅周辺エリアにおける社会実験の実施

## 8-2 狛江駅周辺エリア道路利活用方針（案）

こまねのデザイン

令和5年2月21日  
庁 議 資 料

# 狛江駅周辺エリア 道路利活用方針（案）

令和5年2月

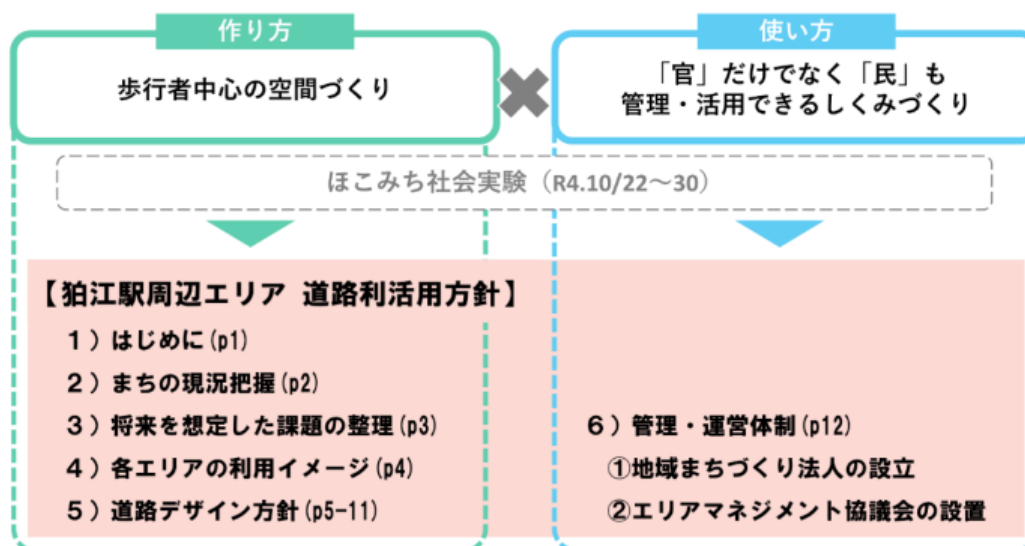
狛江市企画財政部未来戦略室

こまねのデザイン

### 1) はじめに

この「狛江駅周辺エリア 道路利活用方針」は、狛江駅周辺の歩行空間における賑わいと滞留の創出をめざし、駅周辺の市道への『歩行者利便増進道路制度（ほこみち）』の導入を見据えた、駅周辺の自然環境を活かした歩行者中心の空間づくり（作り方）と、官だけでなく民も管理・活用できるしくみ（使い方）の両面から整理するものです。

今後は、この方針のもと、駅周辺市道の整備と管理運営体制の構築を進めていきます。



## 2) まちの現況把握



2

## 3) 将来を想定した課題の整理

① 狛江の特色(強み)	<b>狛江の独自資源を活用</b>	<b>狛江の顔となる空間・しくみづくり</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 狛江弁財天池特別緑地の自然・風景を空間デザインにもイベント活用にも活かす</li> <li>・ 狛江ならではの特色(絵手紙発祥の地、音楽のまち等)を取り入れる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民の多様で多彩な活動を公共空間にて実践するための空間・しくみをつくる</li> <li>・ 駅前の賑わいや商業活性化に資する空間・しくみをつくる</li> <li>・ 市民活動等の発表の場をつくる</li> </ul>
② 歩行空間の課題	<b>安心で安全な歩行空間の創出</b>	<b>誰にとっても快適な駅前空間</b>
	<p>【北側側道】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歩行者・自転車の混在の解消</li> <li>・ 夜間でも安心して歩ける歩行空間づくり</li> </ul> <p>【南側】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駅出入口部分の見通しの悪さに対する注意喚起</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歩行者の多様なアクティビティ(歩く、休む、しゃべるなど)を受け止める、滞留空間づくり</li> <li>・ 子ども、高齢者などあらゆる人にとっての居場所づくり</li> <li>・ 人と人が出会い、つながりが生まれる空間づくり</li> </ul>

3

#### 4) 各エリアの利用イメージ

**① 緑地前側道**

- 平日の昼下がり、散歩道中で赤ちゃんがベビーカーで寝ている間に、テイクアウトで買ったお菓子をベシに履きながら、のんびり食べられる。
- 月、水と老人クラブに出かけた婦人は、竹林の風を感じながらゆっくり歩かせて休める。
- 平日の後はサラリーマンが、テラス席に座ってお酒を飲んでいる友人を語り合っている。1杯だけ、2と違いながらお店に入る。
- 学校帰りの高校生が帰るまで、友達と話ながら、時には竹林をバックに動画を撮影したり、仲良く楽しい時間を過ごしている。
- 週末の日は子連れファミリーは、好きなランチをそれぞれキッチンカーで買って、緑地保全地区の竹林や木々を眺めながら家族みんなでランチを食べる。
- 金曜の夜は、1週間頑張った自分へのプチご褒美タイム。若いカップルが、で会社帰りに夕飯を済ませて帰る。
- 月に一度は、家族みんなで夕食。子どもたちは久しぶりの夕食でなかなか落ちないけれど、広がりがある緑地なら穏やかな気分が食事を楽しめる。

**② 噴水ステージ周辺**

- 噴水ステージは、平日のお昼時は、駅周辺で働くサラリーマンの居場所を取る傾向、それぞれ静かに居るながらも、多くの人が駅前まで通っている。
- 平日の午前、池口に初めて営業で来たビジネスマンは、駅前の一番目印になる噴水ステージで休む合図をする。
- 夕方、学校帰りの中学生のたまり場。名残惜しそらにいつまでもしゃべりあっている。
- 自販の音は子どものダンスイベントが噴水ステージであるので、夫婦そろって肩にいて、子どもだけでなく親御さんもお楽しみで、駅前の多くの人でにぎやかになる。

**③ マルシェ沿道**

- 平日の午後、幼稚園に子どもを迎えにいく。買物帰りに子どもを少し遊ばせてから帰る。ちょっとした時間を子どもが遊べる場所が欲しい。
- 池口に駅前の通りで立ち飲みしながら語り合う若者は、静かな感じが好んでいる。通りは若者のストリート感の雰囲気を感じさせている空間となっている。
- 土曜の日はマルシェ沿道でやっている子ども向けワークショップ目当てに親子が集まる。子どもがワークショップに参加している間、親はキッチンカーでコーヒーを買ってきて、子どもの活躍を見守っている。
- 駅前のイベントが終わった後も、通りのテーブルに客が座って談笑に花をさせ、多量を楽しんでいる。

**④ 改札前南北通路**

- 駅前はお弁当メインのお店が並び、駅利用者や近隣のオフィスワーカーが買い物をしている。
- 改札前にクラフトビールの露台が並び、ビール好きの若者でにぎわっている。クラフトビールを紹介するコーナーでは、店主のおすすめの品やこだわりの製造方法などが紹介される。
- マルシェイベントでは、キッチンカーも出る。お店のファンも集まり、買い物客でにぎわう。ファンの中には池口に初めて来た人も多く、池口の面白さを実感してもらえた。
- イベントが終わったあとも、実情客が椅子やベンチに座ってとどまり、改札前のにぎやかさが続く。まわりの商店も店を遅くまで開けるなどの効果もある。

**⑤ 南口側道・バスロータリー前**

- スタンドバー感覚で通りの壁掛けテーブルで飲んでいる若い女性たちは、おしゃれなカフェ空間の雰囲気を周囲に感じさせている。
- 連れ添う子どもにマルシェで売っているかわいなお菓子をせがまれるも、親も入り買い求める。
- 夫婦で展示イベントを見たあと、夫と一緒に広場前のオープンカフェでお茶をする。

4

#### 5) 道路デザイン方針

##### ① 全体 (平面図)



5

5) 道路デザイン方針  
②ゾーンごと

緑地前側道（噴水側）整備イメージ



6

5) 道路デザイン方針  
②ゾーンごと

噴水ステージ周辺 整備イメージ



7

5) 道路デザイン方針  
②ゾーンごと

マルシェ沿道（改札側） 整備イメージ



8

5) 道路デザイン方針  
②ゾーンごと

マルシェ沿道（中より） 整備イメージ



9

## 5) 道路デザイン方針

### ②ゾーンごと

#### 改札前南北通路 整備イメージ



10

## 5) 道路デザイン方針

### ③各ゾーン共通

(※写真はすべてイメージ)

#### 滞留空間

- ▶空間全体に移動可能な置き式のベンチ、植栽等を配置



#### 照明

- ▶ポール灯、庭園灯、足元照明等により必要な照度を確保
- ▶泉の森会館側道は、駅舎を照らす照明を検討

#### 交通

- ▶エコルマ側道及び南北自由通路は「歩行者専用道路」に切り替え。
- ▶『歩行者と自転車の共存』をめざしつつ、エコルマ側道及び南北自由通路はおしチャリを徹底、泉の森会館側道はおしチャリを推奨。
- ▶自転車速度抑制のための"蛇行線形"の歩行空間を形成

#### 設備

- ▶エコルマ側道の東側入口付近に駐輪場設置を検討
- ▶イベント時のレイアウトを想定のうえ電源を設置

#### 舗装

- ▶舗装は公共道路の一般的基準に則りつつ、滑りにくい舗装材を選定

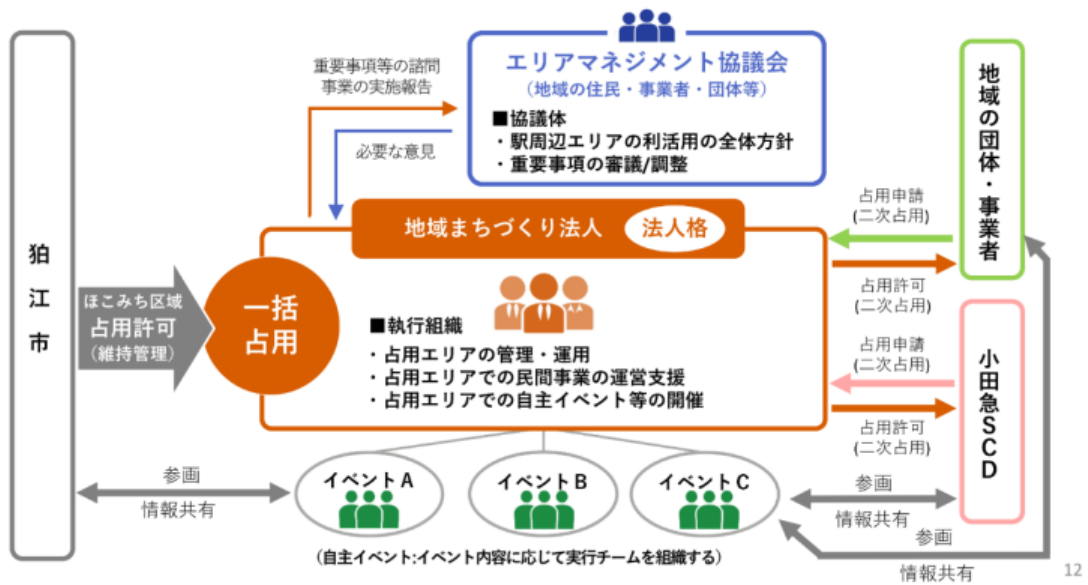


11



## 6) 管理・運営体制

- ① 狛江駅周辺の賑わい創出に向けて、駅周辺エリアのほこみち対象区域を一括占有（一次占有）する「地域まちづくり法人」を設立し、占有区域を管理運営する。
- ② 駅周辺エリアのマネジメントを行うなかでの全体方針や重要事項を審議・調整する「エリアマネジメント協議会」を設置し、地域まちづくり法人はその意見を伺う。



## 9. 狛江駅周辺の快適な歩行者空間の創出に向けた官民連携協議会の運営支援

今年度の協議会に対し、会議等の支援を下記のとおり行った。

回	日時・場所	内容
第1回	令和4年6月22日(水) 18:30~20:30 防災センター4階 402・403 会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>協議会の主旨</li> <li>狛江駅周辺の現況・課題の整理</li> <li>進め方について</li> </ul>
第2回	令和4年7月29日(金) 18:30~20:30 防災センター4階 402・403 会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>前回協議会(6/22)の振り返り</li> <li>社会実験分科会での企画の検討状況</li> <li>道路デザイン方針の検討状況</li> </ul>
第3回	令和4年9月1日(木) 18:30~20:30 狛江市役所 4階 特別会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>前回協議会(7/29)の振り返り</li> <li>社会実験の進捗状況(中間報告)</li> <li>効果検証(歩行者交通量調査)</li> <li>道路デザイン方針の検討状況</li> </ul>
第4回	令和4年10月6日(木) 18:30~20:30 狛江市役所 4階 特別会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会実験の進捗状況(中間報告)</li> <li>効果検証(歩行者交通量調査)</li> <li>道路デザイン方針案</li> </ul>
第5回	令和4年11月17日(木) 18:30~20:30 狛江市役所 4階 特別会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会実験の実施概要(結果報告)</li> <li>効果検証</li> <li>道路デザイン方針案</li> <li>今後のスケジュール</li> </ul>
第6回	令和5年2月7日(火) 18:30~20:30 防災センター3階 302・303 会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>狛江駅周辺エリア 道路利活用方針(案)</li> <li>今後の流れについて</li> </ul>



写真 協議会の様子

## 10. 今後の進め方

狛江駅周辺エリアにおける今後のほこみち制度の導入に向けたスケジュールと検討課題は以下のとおりとなる。

### 10-1 ロードマップ

今年度実施した社会実験やその他の調査を踏まえ、令和6年度に第一期部分の道路占有による運用の開始を目標とした工程は以下のとおりとなる。

	R5 (2023) 年度	R6 (2024) 年度	R7 (2025) 年度
ほこみち	道路指定	区域指定・占有開始 (1期部分)	区域指定・占有開始 (2期部分)
市道	整備工事 (1期)	供用開始 (1期部分) 整備工事 (2期)	供用開始 (2期部分)
小田急マル シェ	改修工事 ※計画中	リニューアルオープン ※計画中	
エリアマネ ジメント	エリマネ協議会設立 地域まちづくり法人設立	エリマネ運営 一次占有 (1期部分)	エリマネ運営 一次占有 (2期部分)

### 10-2 今後の検討課題

上記の事業を進めていくうえで想定する課題と検討内容は以下のとおりとなる。

課題	検討内容
地域まちづくり法人の規模、事業内容等の整理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほこみち指定区域を一括占有するために設立する地域まちづくり法人については、この駅前空間のエリアマネジメント事業の収益のみをもって、法人として自走することは、規模的に見て難しい。</li> <li>・他の分野の収益事業を含めた法人全体の事業構成や事業規模については、後述のほこみち指定区域の占有ルールの内容も踏まえつつ、市として「まちづくりへの再投資」のための原資をどの分野まで広げて求めるか、という点とあわせて整理する必要がある。</li> </ul>
ほこみち指定区域の占有ルールの整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区域指定後は、地域まちづくり法人がほこみち指定区域を一括占有した後、地域の事業者等に二次占有させていくことになる。</li> <li>・この際、地域商業の振興と、鉄道事業者による大規模な駅前空間の賑わいづくりのバランスを保ちながら、最大限の空間活用が図られるようなほこみち指定区域の占有ルールを検</li> </ul>

	<p>討・整備する必要がある。</p>
<p>地域の事業者を中心とした賑わいづくりの促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 狛江市内の事業者は、おしなべて地域への“思い”が強く、その一方で事業規模は比較的小さなところが多い。</li> <li>・ 現在の事業者をプレイヤーとした地域商業の振興とあわせて、駅前空間の持続的な賑わい形成に向けた地域事業者の育成の場としての駅前空間の活用を考えていく必要がある。</li> </ul>
<p>エリマネ協議会における将来ビジョンの設定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本事業で組成した官民連携協議会をベースに、ほこみちの導入、地域まちづくり法人の設立とあわせて、エリアマネジメント協議会を組成する。</li> <li>・ このエリアマネジメント協議会によって、今後も継続的に駅周辺の賑わいづくりを主導していくために、共有すべき中長期的な将来ビジョンを設定する必要があり、そのために必要な検討を行う必要がある。</li> </ul>